平成 25 年度
大阪府立吹田高校
学校教育自己診断
集計結果
&
今後の取組み（案）

【はじめに】

平成２５年10月末から11月上旬にかけて、生徒、保護者の皆様の率直なご意見等を反映し、より良い学校運営に資するため、「学校教育自己診断」を実施いたしました。お忙しい中にも関わりませず、概ね７割弱の保護者の皆様からご回答をいただきました。

その集計結果と今後の取組みについてまとまりましたので、お届けいたします。

【資料の見方】

吹田高校では、他の大阪府立の高等学校と同じく年度当初に「学校経営計画」を策定し、その実現に向けて、教職員が力を合わせ、学校教育に取り組んでいます。

そこで、今年度の学校教育自己診断の結果等につきましても、その「学校経営計画」とリンクした形で整理しました。

＊「学校経営計画」は本校のホームページ（以降、ＨＰと記します）に掲載しておりますので、あわせてご覧ください

本資料の見方は、以下の通りです。

①【学校教育自己診断の質問に関わる「学校経営計画」の重点目標】
②【その項目に関わる質問とアンケート集計結果】
③【アンケート結果に対する学校の受け止め方（分析）】
④【来年度以降の指導の方向性（対応）】

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

1　遅刻撲滅
　　身だしなみ指導

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	遅刻居残り指導は、遅刻防止に効果があると思いますか。	1年	12.9%	19.5%	19.1%	48.4%
		2年	13.5%	24.1%	19.2%	43.2%
		3年	13.6%	24.4%	16.3%	45.7%
2	頭髪帰宅指導は、染髪防止に効果があると思いますか。	1年	21.2%	32.2%	17.3%	29.4%
		2年	15.0%	31.2%	21.8%	32.0%
		3年	21.6%	27.5%	18.0%	32.9%
3	授業中の携帯電話預かり指導は、授業への集中に効果があると思いますか。	1年	15.1%	29.8%	25.4%	29.8%
		2年	11.7%	29.8%	23.0%	35.5%
		3年	13.0%	28.7%	26.8%	31.5%
4	朝の校門指導は、事故防止に効果があると思いますか。	1年	21.0%	38.7%	19.0%	21.4%
		2年	23.0%	35.8%	18.5%	22.6%
		3年	32.1%	35.3%	15.1%	17.5%

【学校の受け止め方（分析）】

質問１～３については、昨年度と比較すると、肯定的な回答が 3.4 ポイント～15.8 ポイント減少し、その分、否定的な回答が増加しています。

「肯定的な回答が減少した」と書かせていただくと、「うまくいっていないのではないか」とご心配をおかけするだろうと思いますが、学校といたしましては、「より良い方向に進む一過程」と受け止めています。

肯定的な回答が減少した一つの理由としては、遅刻数の減少率が昨年度に比べ「顕著でない」ということがあると考えています。昨年度・一昨年度は、その前年度の遅刻者数が極めて多かったため、遅刻の減少は誰もが実感できるものでした。それに比べると、遅刻者数には一定「下り止まり」の感があり、「効果」が実感しづらくなっています。

また、徐々にではありますが、日々生徒たちと接している中で、多くの生徒たちに「（ペナルティがあること以上に）遅刻は、自分の信用を失うことにつながるから、指導があってもなくてもしない」、「染髪は、高校生の自己表現手段として適当ではない」という考え方が生まれはじめていることが感じ取れます。

その結果、遅刻・染髪・授業中の携帯電話使用（携帯電話が鳴った段階で「使用」とみなしています）ば、まだ根絶したとは言いがたいものの、その数は確実に減少しています。

しかし、一方で、依然として「ＴＰＯをわきまえず、自分勝手な理由で行動する」少数の生徒の存在が、浮き彫りになってきました。様々な指導の目をかいくぐり、ペナルティを逃れようとする生徒が、少数ではありますが存在しています。また、指導を緩めるとそれに追随しようとする生徒も少なからずいるようです。

肯定的な回答が減少した要因は、このような状況を、「自覚を持ち、規則を守っている生徒」から見ると、指導の効果が上がっていないと映っていることもあると捉えています。

また、質問４の朝の校門指導は「朝のあいさつ運動」とも連動し、今や地域の朝の一風景として定着しているのではないかと思っています。今後も生徒の意見を尊重しながらよりよいものにしていきたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

遅刻や違反行為は、数年前に比べて明らかに減少しています。

本校は、今、生徒指導における一つの大きな山を越え、さらなる規範意識・自律心の定着に向けて、生徒自らの価値観が変化しつつあり、この生徒【発】のさらなる改善をしっかりと支えていきたいと思っています。

しかしながら、一方で、重点指導項目に入っていない化粧やピアスの現状を見ると、保護者の皆様からの否定的なご指摘も多く、残念ながら「ペナルティを課す指導の効果が大きいことは、今のところ否めない」というのが現状だと認識しています。

本校におけるペナルティの目的は、単なる「罰」ではなく、生徒が「本来とるべき行動やその理由を考える」とともに、教員も「その指導が効果的であるために工夫し、考える」ことにあります。

本校での遅刻者に対する「1,000 字指導」も、「1,000 字を書かせるだけ」ではありません。それよりも、書写前後の教員との対話が大切だと考えています。

めざすところは「じっくりと生徒と話す指導」であり、「生徒自身が自らを律することができる学校」です。学校としては、この意識が決して希薄にならないよう、あらためて全教職員での確認を続けていきます。

生徒の思いを受け止めた上で、今後の人生への展望を持たせることは、今を見直すことにつながります。私たち教職員は、これまでの指導方法の至らない部分を真摯に反省しながら、一定浸透しつつある規範意識を、吹高生の常識として定着させることができるよう、今しばらくは現在の指導を継続することが大切だと考えています。

誰に言われなくてもＴＰＯに応じた高校生らしい服装や行動ができるように、また、その毎日の取組みが、希望する自己実現・進路実現につながっていくように、生徒の皆さんの自覚ある行動と創造力に期待しながら、生徒たちと向かい合ってまいります。

一度にすべてを「合格ライン」に引きあげることはできませんが、生徒の現状に向き合いながら、生徒の資質・能力を最大限に伸ばしていける指導を実践していきたいと考えています。

また、本校校門付近は交通量が多く、歩道と車道の整備も十分ではないことから、朝の校門指導は、何よりも事故防止に大きな効果があると認識しており、生徒の安全を守る上で必要不可欠であると考えています。

遅刻への意識の高まりによって、登校を急ぐあまり、交通ルールの軽視につながることがあっては本末転倒であり、この点には十分に留意しながら、朝の校門指導自体は、これからも継続させていただきます。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

	質問	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	生徒が遅刻した場合、今後も居残り指導を続ける方がよいと思われますか。	63.2%	24.3%	5.5%	7.0%
2	生徒が髪を染色した場合、保護者の理解を得たうえで帰宅指導を行っています。今後も帰宅指導を続けた方がよいと思われますか。	68.4%	18.4%	7.6%	5.5%
3	授業中に携帯電話を使用した場合、預かり指導を行っています。今後も預かり指導を続けた方がよいと思われますか。	73.9%	18.4%	4.0%	3.6%

【学校の受け止め方（分析）】

本校にとって、生徒の将来を真剣に考えた時、規範意識を向上させることは早急に取り組むべき最重要の課題でした。そのため、全教職員で慎重に議論を重ね、「遅刻居残り指導」、「頭髪帰宅指導」、「授業中の携帯電話預かり指導」等を導入させていただき、３年が経過しました。

保護者の皆様からは、今回もすべての項目において、肯定的な回答が９割前後という高いご支持をいただきました。本校が行っているこれらの指導について、ご理解いただき、ご家庭でも遅刻や頭髪、服装についてお話ししていただけているものと、ありがたく受けとめさせていただいています。おかげさまで、学校近隣の方々からも「吹高は最近落ち着いてきましたね」という声が聞かれるようになりました。

決して、現在の指導がベストで、将来的にも継続すべきものだとは考えておりませんが、生徒の現状に合わせて、今後も保護者の皆様のご理解を得ながら、家庭と学校が協力して、生徒の規範意識を向上させる指導を続けていくことが重要だと考えています。そうすることで、生徒一人ひとりが指導の趣旨をさらに正しく理解し、自らの行動を是正していくことができるようになってくれるものと大いに期待しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

おかげさまで、今年も遅刻や違反行為は減少していますが、これらの状態が吹高生の当然の規範としてしっかりと定着するまで、今しばらくは現在の指導を継続することが必要だと思っています。

指導に際しては、もちろん、ペナルティを課すことが目的ではありません。

現在も心がけていることですが、ペナルティを課したから“はい、これで終わり”ではなく、時間を惜しまずにしっかりと説諭を行い、なぜ指導を受けているのか、該当生徒にきっちりと納得させること、安易な指導にならないことが不可欠だと認識しています。

遅刻がさらに減少し、朝一番から気持ちよく爽やかに授業がはじまる。

誰に言われなくてもＴＰＯに応じた服装や行動をとることができる。

そんな風に、吹田高校が一日も早く、「ペナルティがなくても、生徒自らが自分で遅刻や違反行為を律していくことが当たり前」の学校となるよう、今後も丁寧な指導を続けていきたいと考えています。

引き続き、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

２　学校行事・部活動のさらなる充実・活性化

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
5	あなた自身は、文化祭、体育祭、遠足などの学校行事に自主的・積極的に参加していますか。	1年	40.2%	42.6%	10.4%	6.8%
		2年	43.6%	40.5%	11.4%	4.5%
		3年	53.8%	32.0%	8.7%	5.5%

【学校の受け止め方（分析）】

各学年とも、肯定的な回答をしている生徒が昨年と同様、８割を超えています。

今年度も、体育祭・文化祭における事前準備や当日の様子は、学校全体として活気に溢れ、昨年と同様、生徒が積極的に参加していたように思います。

本校では、昨年まで体育祭と文化祭の直前に短縮期間を設定し、授業を通常より１時間ほど早く終了させることで、放課後の準備・練習の時間を確保し、その時間帯には「全校生徒を必ず校内で活動【させて】」いました。しかし、今年度からは、「生徒の自主性を育む」という観点から、あえて「拘束時間」を設けず、放課後の準備・練習の時間の使い方については、生徒が自分たちで考え、計画し、行動するように制度を変更しました。

このような変更を行うことで、例えば、あるクラスでは放課後に全員が教室で準備をしていたり、他のクラスではクラス代表だけで教室に残り、今後の準備計画を立てていたり、また他のクラスでは、クラス内で協力する意識がやや不足していたせいか、準備をするために放課後に残る生徒が少なく、思うように準備が進まなかったりしました。

どのようにして準備を進めていけばよいのか戸惑うクラスもありましたが、教師に言われる通りにするだけでなく、自分たちで与えられた時間の中で、考えながら準備をしていくことが大切であると考えています。このように、生徒が自らの力で学校行事をつくる機会を多く設けることで、「自主性」を引き出し、「自分たちの学校行事は、自分たちでつくる」という意識を育てたいと考えています。そして、自分たちの手で作った学校行事をもっと好きになってもらい、ひいては、吹田高校という学校をもっと好きになってもらいたいと考えています。

こういった中で、特筆すべきなのが、３年生（６２期生）の「そう思う」と答えた数が、53.8%もあることです。この６２期生は昨年度、２年次においても「そう思う」と答えた数が 50%を超えており、「自主性・積極性」に富んだ学年であると思われます。数値を裏付けるように、今年度の活動の様子も活発なだけでなく、自分達で考え、計画し、行動する姿勢が随所で見受けられました。

一方で、否定的な回答をしている生徒が、昨年よりは減少したものの、全体として 15%程度いることも事実です。

学校行事に対する生徒の意識は年々向上しているものの、学校行事に前向きに参加できていない生徒がいることについては、課題として認識しています。

生徒自身の学校行事に対する「好き・嫌い」はあるでしょうが、クラスなどの集団の中

で他者と協調しながら、自主的かつ積極的に学校行事に取り組もうとする姿勢を「育む」ことも、学校行事の教育的意義の一つですので、それを達成できるための働きかけをしていかなければならないと感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校行事を通して人間的に成長する。これが、学校行事で一番大切にしなくてはならないことだと考えています。

もちろん、「高校生活の楽しい想い出をつくる」という役割も非常に大切であり、そのかけがえのない想い出はいつまでも心の中に残るものだと思います。

しかし、それだけに留まるのではなく、学校行事という貴重な体験や活動を通して、集団で物事を進めていくために必要な協調性を知り、壁にぶつかったときの問題解決能力やコミュニケーション能力を磨き、他者の優しさに気づく。

こういった、普段の学校生活だけでは育みきれない力や様々な気付きを、学校行事は与えてくれます。

ときには悩み、苦しみ、辛くてしんどい瞬間もあるかもしれません。しかし、その一つひとつの経験がひとりの人間として成長していく上での糧になることを、信じて疑いません。そのための方法として、例えば、体育祭・文化祭の「運営」に携わる生徒を少しずつ増やしていくことを考えています。これまでは、自身が所属するクラスやクラブ等の団体の中での活動や準備が主たる活動でしたが、従来は生徒会執行部が担ってきた、体育祭・文化祭全体に寄与するような活動や準備についても、他の多くの生徒にも担ってもらおうと考えています。

今年度は、学校行事の企画・運営において、生徒会執行部の生徒が大いに活躍してくれました。今後の方向性としましては、全校生徒の代表である生徒会執行部を中心として、より多くの生徒が主体的に学校行事に関わっていけるよう、取り組んでまいりたいと思います。確かに生徒にとって困難な部分は増えるかもしれませんが、これらの活動が「自主性」の育みを促し、生徒の皆さんが人間的に成長していくための糧になることを願っています。結果的にうまくいかず、失敗であるように思えても、そこから何かを学び取ることができれば、長い目でみたときに、その生徒にとってはプラスの経験になるのではないかと思います。遠慮なく失敗できる、それも学校の良さのひとつではないでしょうか。

今後とも、生徒の皆さんが、ひとりの人間として成長できるよう、我々教職員が一丸となって全力でサポートしていきたいと考えています。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
6	学校の部活動は活発だと思いますか。	1年	26.9%	39.5%	20.2%	13.4%
		2年	27.8%	43.6%	17.8%	10.8%
		3年	28.1%	39.1%	20.9%	11.9%

【学校の受け止め方（分析）】

全体として概ね６７％ほどの生徒が本校の部活動の「活発さ」に対して肯定的な回答を

しています。

「部活動が活発かどうか」という質問に対しての生徒の判断基準は、活発なクラブの様子を、【見たり・聞いたり・感じたり】しているかどうかだと思います。自身が所属するクラブ活動に一定の満足感を得ている場合は、その活発な活動を【見たり・聞いたり・感じたり】しているので、「活発である」と答えるでしょうし、クラブに加入していない生徒であっても、クラブに加入している友人やクラスメイトの精力的な活動を【見たり・聞いたり・感じたり】していれば、「活発である」と答えるかもしれません。

「活発でない」と答える生徒の多くは、精力的に部活動に励んでいる友人が身近にはいないので、クラブ活動の様子を【見たり・聞いたり・感じたり】しておらず、そのような答えになるのかもしれません。

いずれにせよ、「本校の部活動をより活発化させるためには」という根本的な議論も当然必要ですが、同時に、現在、活発に活動しているクラブの様子を、多くの生徒に知ってもらうような取組みも重要だと感じています。その取組みを進めることで、クラブに加入していない生徒も、クラブ活動の様子を【見たり・聞いたり・感じたり】することができるのではないかと思います。

補足ではありますが、各学年のクラブ加入率（１１月末現在）は、１年生 50.2%、２年生 47.7%、３年生 44.3%となっております。

この「クラブ加入率」と「この質問への回答」の関連性については、今年度の結果のみでは検証が難しいと考えておりますので、来年度における学校教育自己診断の結果と合わせて、検証していきたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

クラブ部員の活動の様子を、他の多くの生徒に知ってもらうための一つの手段として、H２５年１２月より、「生徒会新聞」の発行をスタートいたしました。これは、生徒会執行部が中心となって作成し、吹田高校のあらゆる情報を発信するもので、クラブ情報（試合結果、最近の活動など）をはじめ、生徒会執行部の取り組み、学校行事の紹介など、吹田高校生の情報交換ツールとして活用できるのではないかと考えています。当然ですが、クラブ部員同士の情報交換としても活用できます。

このように、他の生徒の活動に関心をもてるような機会を、生徒の皆さんに提供できるような取組みを推進していきたいと思っています。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
7	本校の文化祭、体育祭などの行事は活発だと思われますか。	28.1%	52.8%	16.0%	3.1%

【学校の受け止め方（分析）】

こちらも生徒からの回答と同様に、昨年に引き続き、多くの保護者の皆様から肯定的な回答をいただきました。ありがとうございます。否定的な回答については、昨年度は 24.3%

でしたが、今年度は 19.1%とやや減少いたしました。

体育祭や文化祭に、ご来校くださる保護者の方も増加傾向にあり、実際の活動を見ていただけていることや、学校での取組みや様子が、生徒を通じてご家庭にも届いていることの表れだと喜んでいます。特に、今年度からは、広報担当の教員が、体育祭・文化祭の活動の様子を保護者の皆様に知ってもらうべく、HP における特設ページを開設し、活動の様子がわかる写真等を随時アップいたしました。その結果として、昨年度よりも活動の様子を知っていただけたのでは、と考えています。

また、今年度の文化祭においては、PTA と生徒会執行部共催による「PTA 賞」という表彰制度を新たに設け、少しでも多くの保護者の皆様に、文化祭に関心を持っていただけるよう努めました。（ご自宅において、お子さんと少しでも文化祭のことが話題に上がるだけでもいいと思っています）これらの新たな取組みが数値に好影響を及ぼしたのかもしれません。

しかし、体育祭や文化祭に来られた保護者の皆様の「生の声」を聞きますと、まだまだ運営面においても、生徒の意識の面においても、改善すべきところがあると認識しております。

生徒がイキイキと活動している姿と、学校が全体として盛り上がっている雰囲気が、行事の活発さを示す「ものさし」だと考えていますが、それらをさらに活性化するためには、校内での生徒と教職員が一体となった取組みを進めていくと同時に、その様子を保護者の皆様にも発信できるような取組みが必要だと感じております。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校行事を活発にしていくキーワードは「自主性」であると考えています。

そして、生徒が自らの力で学校行事をつくっていくという意識を育むことが、さらなる学校行事の活性化を促すポイントだと思います。

また、行事の様子を保護者の皆様にしっかりと情報発信していくことで、生徒・学校・保護者を繋ぎ、それぞれが関わり合いながら学校行事をつくっていくという意識もまた学校行事の活性化には大切なことだと考えています。

近年、めざす学校像の一つとして、「開かれた学校」という言葉がよく使われるようになりました。学校を、物理的にも意識のうえでも閉鎖的な空間にするのではなく、地域にも家庭にも開かれた学校にしていくことで、学校・地域・家庭が連携しながら子どもたちを育てていきたい。そんな想いが「開かれた学校」という言葉には込められています。

吹田高校が、より「開かれた学校」になっていくためには、まずは生徒が過ごしている学校の様子が実際に見えること。そして、保護者の皆様が、その「開かれた雰囲気」を肌で感じてもらえるようにすることが重要だと思います。

これらを実現するために、まずは、生徒たち自身が充実していると感じられるよう、学校行事としての「中身の充実」を図り、保護者の皆様には、実際に体育祭・文化祭を見に来ていただけるよう、丁寧なご案内に努めるとともに、メルマガやホームページをさらに活用して、生徒たちのイキイキとした表情や言葉などのリアルな学校生活の様子をご家庭でも見て、感じていただけるよう、「丁寧な情報発信」を心がけたいと思っています。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
8	本校の部活動は活発だと思われますか。	24.4%	50.3%	20.2%	5.2%

【学校の受け止め方（分析）】

昨年の約 65%を大きく越え、今年は保護者の皆様の約 75%の方々から肯定的な回答をいただきました。

本校の部活動は運動系 13、文化系 13 の合計 26 種類あります。競技の特性や部員の状況を踏まえながら、個々のクラブの活動方針に即して部活動が実施されており、平日・休日を問わず、練習や試合をしているクラブもあれば、「平日のみ」や「週２日」というような活動形態をとっているクラブもあります。

こういった活動形態の違いがありますので、お子様がどのクラブに加入しているのかによって、保護者の皆様の感じ方もまた少し違ってくるように思いますが、その中で、昨年度に引き続き、肯定的な回答をいただき、ありがとうございます。

おかげさまで、各クラブ活動等も精力的に活動し、今年度は全国大会への出場を果たすことができました。

【全国大会】ソフトテニス部：全国大会初出場
【近畿大会】ソフトテニス部：４年連続出場

このほかに、本校のクラブ活動ではありませんが、今年度の国体（スポーツ祭東京 2013）の山岳競技、ボルダリング少年の部において本校生徒が出場し、見事準優勝に輝きました。

一方で、クラブ加入率から見ますと全体で依然として約５割と、まだまだ低い数値となっています。１年時には、毎年多くの生徒が入部はするものの、途中で辞めてしまう生徒が多いのが実情です。その結果として、年度当初の加入率が年間通して維持されるのが難しい現状にあります。

部活動に対する生徒の考え方も様々で、前向きに取り組みたいと考える生徒もいれば、「しんどいからしたくない」、「遊びたい」というように部活動に関心がない生徒もいます。その他のさまざまな事情で、部活動をする余裕のない生徒もいます。

こういった状況の中でも、学校としては可能な限り、部活動へ参加してもらい、その活動を通して、人間的に成長して欲しいと考えています。

課題としては、部活動を前向きに捉えていない生徒に対して、部活動の良さをどのようにアピールできるのか。そして、一度入部した生徒を卒業まで続けさせるにはどうしたらよいのか、具体的なアイデアを出すことですが、これは教職員だけでなく、部員と共に考えていくべきことだと認識しています。

また、保護者の皆様に対しては、本校の部活動の様子をよりよく知っていただけるような情報発信に努めていかなければならないと思っております。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

多くの生徒が「入りたいな」と思える部活動づくりと、部活動の良さを継続的にアピールしていくことが大切だと感じています。

初めての高校生活、初めての部活動。迷っている新入生の背中を押してあげられるようなアプローチを考えていきます。

また、４月の部活動勧誘の時期だけでなく、年間を通して定期的に部活動参加への呼びかけを継続していきたいと考えています。実際の部活動の様子を見てから、入部するかどうかを判断したい生徒もいるようですので、次年度は「途中入部」の推進にも取り組んでいきます。

部活動の情報発信についても、メルマガやホームページをより一層活用しながら、保護者の皆様にも部活動の様子をお伝えしていきたいと思います。また、平成２５年１２月より発行をスタートいたしました、「生徒会新聞」（クラブ情報など、様々な学校情報を発信するツールとして、生徒会執行部が作成）を通じて、クラブ活動の様子を少しでも多くの生徒に伝えていき、それをきっかけにしてクラブ活動に興味を持ってくれる生徒が増えることを期待しています。おそらく、不定期の発行にはなりますが、今後は、生徒同士の情報交換ツールとして活用していきたいと考えています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

３　教育相談・支援教育の充実

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
7	あなたは、本校に悩みを相談できる場（先生や部屋）があると感じていますか。	1年	12.6%	31.6%	27.3%	28.5%
		2年	12.7%	31.7%	27.4%	28.2%
		3年	12.5%	28.2%	25.5%	33.7%

【学校の受け止め方（分析）】

学校に悩みを相談できる場があると回答した生徒は、今年度は全学年で約４割であり、昨年度の５割弱に比べ、少し減少しました。その原因として、悩んでいる生徒の割合が増加しているのではないかと危惧しており、相談室のさらなるＰＲの必要性を痛感しています。

教育相談・支援教育については、担任を中心とした日常的な相談体制に加え、月曜日から金曜日までの昼休みと放課後、「みかんルーム（教育相談室）」に保健部担当教職員が詰め、生徒が気軽に相談ができる体制を築いてきました。また、今年度は、よりよい人間関係を育むために、コミュニケーションスキルの向上を目的としてスクールカウンセラーを講師とする心理学入門講座もあわせて実施しました。

もちろん、緊急の際には、いち早く、いつでも相談に乗れる体制を保健部教職員中心に常時設定してきました。保健部教職員以外にもスクールカウンセラーが毎月 1～2 回来校し、生徒・保護者・教職員の面接、スーパーバイズ（教育相談・支援教育を総合的に運用する役割）、コンサルテーション（専門的な診断・鑑定）に当たってもらっています。

８年前にこの体制を組んだ当初は、みかんルームへの来室者も少数でしたが、徐々に相談件数も増え、生徒の皆さんの心身の健康の充実に役立っていると感じており、引き続きさらなる充実に努めたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

安全で、安心して学ぶことができる環境づくりが、とりわけ近年の学校においては必要不可欠なものという意識が、ようやく社会的にも定着してきました。

生徒自らの持つ資質や能力を最大限発揮するために、教育相談・支援教育の果たす役割は、ますます大きくなっていくものと推察されます。

おかげさまで、本校の支援体制、支援に対する教職員の意識は極めて高く、安心して相談してもらえる環境を整えています。

今後もさらに、これらの実践を充実させ、生徒の皆さんが悩みをより気軽に相談でき、また、一歩進んで積極的に心身の健康を増進できるスキルを身につけ、学校生活を充実したものとしていけるよう努力していきます。

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
4	きめ細かな教育相談体制の充実を図っています。このような取り組みは、これからもさらに充実させるべきだと思われますか。	80.7%	16.1%	2.3%	1.0%
5	お子さんの心身の健康について、連絡・相談したいことがある場合、気軽に先生に相談でき（できると思われ）ますか。	27.8%	43.9%	19.9%	8.3%

【学校の受け止め方（分析）】

昨年度と同様に、９割以上の保護者の皆様が教育相談体制充実の取組みを期待してくださっており、７割近くの方がお子さんの心身の健康について気軽に相談できると回答してくださっています。　ありがたいことです。

教育相談・支援教育については、生徒の高校生活あるいは人生設計における多様なニーズや不安等に適切に答えることができるよう努めています。

担任を中心としたすべての生徒への日常的な支援体制に加え、定期的な支援会議の開催、ケースによっては関係諸機関との連携を図りながら、特別委員会等の校内組織での支援を行ってきました。

また、スクールカウンセラーや支援学校教職員を講師に招いてのケース会議や職員研修も実施してきました。

近年、心身の発達に関わることで課題を有する生徒についても、関係諸機関と連携を取りながら生徒のニーズ、自己実現に向けたサポート体制の構築を図っているところです。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

基本的には、これまで同様、生徒たち一人ひとりの悩みや想いを真摯に受け止め、それぞれのケースに応じたきめ細かな対応に心がけたいと考えています。

また、より多くの教職員が多様な課題を抱える生徒にしっかりと寄り添えるよう、ケー

ス会議や職員研修等の機会も設定し、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていきたいと考えています。

加えて、社会状況の急激な変化に伴い、生徒たちが抱える課題がより複雑化する現状を踏まえ、今後もさらに、関係機関並びに保護者の皆様とも連携を深めながら、教育相談、支援教育の進化・充実に努めてまいりたいと考えています。

保護者の皆様におかれましては、今後も引き続き、お子様に関わってお悩み、お気づきのことがございましたら、お気軽に学校までご一報いただきますよう、お願いいたします。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

４　互いを認め合える集団づくり

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
8	学校は皆さんに、男女平等や性差別、障がい・障がい者に対する正しい理解など、人権に関して学ぶ機会を大切に提供していると思いますか。	1年	15.3%	46.4%	27.4%	10.9%
		2年	18.1%	42.1%	27.0%	12.7%
		3年	15.0%	41.3%	28.3%	15.4%
9	学校は、「いじめ」や「暴力」などいろいろな問題を見逃さず対応してくれていると思いますか。	1年	14.3%	39.6%	28.6%	17.6%
		2年	12.6%	37.5%	32.6%	17.2%
		3年	10.9%	41.9%	28.6%	18.5%

【学校の受け止め方（分析）】

人権に関する学ぶ機会の提供について、２年生は（１年生だった）昨年と比べほぼ同じ評価、３年生は(２年生だった)昨年に比べ、やや高い評価でした。否定的な評価は、２年生はやや増え、３年生はほぼ同じです。

しかしながら、両学年とも肯定的な評価が依然として６割にとどまっていることは重く受け止めるべきことだと考えています。昨年の分析で触れられた「生徒が十分と考える人権教育がなされているとは言えない」という状況は、生徒の立場から見る限り、大きくは変わっていません。

本校ではホームルームや授業は勿論、行事、部活動といった場においても、教員が折に触れ、人権を守ることの大切さや、差別を許さない集団作りを指導していますが、この結果を見る限り、残念ながら、それが生徒に十分浸透しているとは言えません。

「学校は、いじめ・暴力を見逃さず対応しているか」という問いに対しては、１年生を含めた全学年の平均は５割程度にとどまっていますが、２年生は１年次に比べ、変化はないものの、３年生が２年次に比べ大きく変化し、肯定的な評価が高くなりました。いじめに関するアンケート調査をはじめとする学校の取組みが評価されたものと捉えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

人権に関して学ぶ機会の提供について、今後は現状(肯定的評価６割)を改善するために、特にホームルームや総合的な学習の時間を活用した取り組みを進めてまいります。学年進行も考慮した長期的計画に基づき、講演やロールプレイ等も取り入れ、人権教育が生徒に

とってより身近なものとなり、学校の取り組みに満足するような状況をめざしてまいります。

「いじめ、暴力を学校は見逃さず対応しているか」については、全学年を通じて肯定的評価をもっと得られるよう、担任をはじめとした教員集団によって日常的に見守り、組織的な教員の関わりをさらに深めてまいります。また、生徒が「いじめ」等について相談しやすいように、アンケート形式の相談に加えて、すでに今秋、メールによる相談体制も開始いたしました。生徒の中に「学校はどんな問題も見逃さず、生徒の人権を守ろうとしている」という意識が浸透するよう、さらに努力してまいります。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

５　安全管理の徹底、校内美化の推進と外部機関との連携

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
10	校内は、清掃が行き届いていると思いますか。	1年	5.9%	15.4%	31.2%	47.4%
		2年	11.0%	24.6%	36.0%	28.4%
		3年	6.7%	19.6%	38.8%	34.9%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
6	校内は清掃が行き届いていると思われますか。	10.8%	49.4%	24.9%	14.9%

【学校の受け止め方（分析）】

校内の清掃が行き届いていると回答したのは、生徒については、昨年度３割、今年度は３割弱と少し減少しました。

創立６４年目を迎え、歴史と伝統を積み重ねてきた本校ですが、校舎設備の老朽化が目立ってきたことは否めない事実です。

そういう中で、日々の通常清掃に加え、定期・臨時の大掃除、清掃徹底週間、清掃担当の教職員と生徒による施設設備の安全点検、クラブ員と生徒会執行部、有志生徒によるクリーンキャンペーン、生徒会執行部と生徒保健委員によるミニ・クリーンキャンペーン（校内外清掃活動）、生徒保健委員によるごみのポイ捨て予防ポスターの作製・掲示等を継続して行ってきました。加えて、今年度は、若手教員による校内清掃活動を毎日行うとともに、安全点検で所見のあった箇所については速やかに対処をしています。

これらの取組みを行う中で、学校施設環境に一定の改善は図られたものと感じています。

一方、保護者の皆様については、校内の清掃が行き届いていると回答してくださった方は、昨年度６割弱、今年度は６割と少し増加しました。

古い学校ではあるけれど、メンテナンスという意味で、生徒たちを中心とした小さな活動の積み重ねの成果を、好意的に評価していただいたことの表れだと喜んでいます。

今年度は、とりわけ老朽化の目立った、中央館の１階・２階・３階の３か所のトイレを全面改装できることになりました。ありがたいことです。その節には、生徒代表として各クラス生徒保健委員と、保護者代表としてPTA保健厚生委員の皆様がよりよいトイレづくりのアンケートにご協力くださいました。貴重なご意見をたくさんいただきました。

加えて、玄関前プランターなど、PTAの皆様方が１年を通じて整備してくださっている効果でもあると心から感謝しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

校舎設備老朽化の改善については、学校の努力だけでは困難な面もありますが、府教育委員会にも引き続き計画的な整備を要望し、少しずつでも着実に整備していきたいと思います。

同時に、生徒・教職員の一人ひとりが「自分の学校・母校」という意識を持ち、清掃に対する意識を少しずつ高めることが、「古いけれど、手入れの行き届いた学校」につながると考えています。汚さないこと、汚れやゴミに気づいた最初の人が率先して対処するという意識の定着を図りたいと思います。自分たちの学校の美化は自分たち自身が責任を持って取り組むという意識を持てるよう、継続して指導していきたいと考えています。

今後も、生徒全員が参加できる学校環境美化活動をさらに工夫することで、保護者の皆様がいつ来校してくださってもきれいな学校であり、清掃の行き届いた環境で学校生活を送る喜びを生徒に感じさせてあげることができるよう、粘り強く取り組んでまいります。

引き続き、保護者の皆様にもご理解とご協力をいただければ幸いです。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

６　授業アンケートの活用と授業見学週間の定着
７　授業規範の確立と授業マナーの向上

■生徒へのアンケート

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
11	授業は分かりやすく、興味が持てますか。	1年	8.8%	29.9%	33.9%	27.5%
		2年	7.3%	33.2%	38.9%	20.6%
		3年	5.5%	37.5%	35.2%	21.7%
12	あなたは授業中、私語などせず集中して取り組んでいますか。	1年	23.3%	40.6%	24.5%	11.6%
		2年	19.6%	39.2%	28.6%	12.5%
		3年	21.7%	42.9%	26.4%	9.1%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		はい			いいえ
9	本校では、すべての教員が授業アンケートを行い、授業改善に取り組んでいます。このことをご存知でしたか。	18.1%	------	------	81.9%

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
10	生徒は吹田高校の授業内容に満足（わかる、興味が持てる）していると思われますか。	11.3%	52.4%	30.0%	6.2%

【学校の受け止め方（分析）】

昨年度に比べて少しは向上したものの、生徒の６割程度、保護者の皆様の３割以上の方から「授業が分かりにくい」「興味が持てない」という回答をいただきました。

一般的に、高校での授業はただ単純に楽しいだけのものではなく、充実感や達成感を得るためにはある程度の忍耐と努力が必要ですが、生徒に一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

そのため、教員の授業力の向上に向けては、これまでから「授業見学週間」(*1)を設定したり、昨年度には大阪府教育センターの「パッケージ研修」(*2)を積極的に導入、さらに今年度からは、生徒たちの生の声を聴くため年に２回の「授業アンケート」を実施するなど、精力的に授業改善に努めてきました。

(*1) 教員が相互に授業見学を行い、真摯なアドバイスを交換する機会として、年に１度設定しています。（今年度は 11 月中下旬の２週間）

(*2) 教育センター所属の指導主事のアドバイスを受けた本校教員が研究授業行いその後、その授業を題材に、全教員で授業力向上に向けた研究協議を行うという、一連の研修のこと。

しかしながら、昨年度に続き、少なくない皆さんから否定的な回答をいただいたことは、あらためて学校として真摯に受け止め、授業に興味をもたせる一層の工夫や、学習に対して不安がある生徒に対するさらなるケアが必要だと認識しており、早急に改善を図りたいと思います。

授業アンケートは４年前から実施してきましたが、保護者の皆様の８割以上の方にご存知いただいていないという結果でした。今年度からは

府立高校全体の制度として、今後も年に２回実施することが決まっています。吹田高校でもアンケート結果を受けて、個人・科目・教科の各レベルで振り返りをして、授業改善に取り組んでまいりました。昨年より１割程度数字が上がりましたが、依然としてその姿勢がほとんど伝えることができておらず、さらに改善を図りたいと思います。

また、私語などをせず集中して授業を受けているかという質問に対して３～４割の生徒が否定的な回答をしています。まだまだ、集中度を高めて成果の上がる授業を展開する必要があると分析しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

繰り返しになりますが、生徒に一定の学力をつけることは学校として当然の責務であり、中でも授業は学校の根幹をなすものです。

今回の結果を踏まえ、すべての教員が自らの授業技術を磨く必要性をさらに強く自覚し、取り組むことは当然ですが、科目や教科単位で年間の到達目標を明確にして生徒に提示することを充実させ、総合的な授業力の向上に努めてまいります。

一方で、授業はまさに教員と生徒の共同作業であり、お互いが求められる役割と責任を果たすことで初めて「よい授業、興味が持て、分かる授業」が成立します。

授業規律の確立とさらなる向上が大切になりますし、生徒たちが必要な予習や復習をしてくることが、やはり授業改善の大きな前提になります。

しかしながら、本校生の中には、依然として必要以上のアルバイトや遊び等を優先し、家庭での学習時間が著しく少ない生徒がいることも現実です。

学校・家庭が協力し、一人ひとりの生徒の「今しかできない、高校生としての生活」を、より充実したものにしてもらいたいと願っておりますので、ご家庭におかれましても、お子様が必要最低限の学習時間を確保できるよう、「手は離しても、目は離さない」関わりをお願いいたします。

保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、生徒が、学ぶこと、新たな知識を得ることの楽しさと大切さに気づくことができる授業づくりに、学校をあげて取り組んでいきたいと思います。

授業アンケートにつきましては、アンケート結果に基づき授業改善に取り組む学校の姿勢を、さらに丁寧にお伝えさせていただきたいと思います。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
13	基礎学力の向上や1時間目の授業に落ち着いて取り組めることなどをめざして、「朝ガク」を実施していますが、役に立っていると思いますか。	1年	11.0%	26.5%	28.6%	33.9%
		2年	9.0%	26.7%	25.9%	38.4%
		3年	6.8%	15.9%	28.7%	48.6%

【学校の受け止め方（分析）】

全学年を通じて肯定的な回答が２～４割程度にとどまり、特に３年生では否定的な回答が８割近くにも達しました。

「朝ガク」の目的は、大きく２つあると考えています。

１つは、まさに基礎学力の向上をめざすことであり、もう１つは、１時間目の授業を落ち着いた環境でスタートさせることです。

１時間目の授業が落ち着いた状況で始められたという点では、全学年を通して一定の成果がありましたが、基礎学力の向上という点では多くの生徒が役立っているとは捉えていないと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校生活を規律あるものとするために、全学年を通じて１時間目の授業が落ち着いた状況の中で開始できるようになったことは、成果だと認識しています。

一方で、「朝ガク」の目標・内容については、学年進行に応じて、さらに整理する必要もあると考えています。現在学校では、生徒のニーズも勘案しながら、一層の工夫を重ねたうえで、この朝の学習スタイルを継承する必要があると考えており、引き続き、具体的な内容・方法について慎重に協議しきたいと考えています。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

８　３年間を見据えた系統的な進路指導計画への改善

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
14	進路希望に応じて、コースや選択科目が選べるように配慮されていると思いますか。	１年	23.5%	53.4%	16.3%	6.8%
		２年	21.7%	45.7%	22.5%	10.1%
		３年	24.9%	49.0%	17.8%	8.3%
15	本校で提供している進路に関する情報や進路ホームルームは、あなたが将来の進路を考えるうえで役立っていると思いますか。	１年	23.0%	48.0%	19.0%	10.1%
		２年	13.8%	46.9%	25.4%	13.8%
		３年	23.9%	46.2%	16.3%	13.5%

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
11	本校では、お子さんの進路希望に応じたコースや選択科目が選べるようになっていると思われますか。	21.6%	62.2%	12.4%	3.9%
12	本校では、お子さんの進路実現に役立つ情報提供や、学力向上のための講習などが行われていると思われますか。	19.9%	57.4%	17.5%	5.2%

【学校の受け止め方（分析）】

「希望に応じた、コースや選択科目（の設定）」については、生徒からも保護者の皆様からも概ね７割を超える肯定的な回答をいただきました。

今年度は１、２年生ともに、科目選択と進路を考えるＨＲや保護者説明会を実施して、指導の充実を図ってきましたが、２年生に否定的な回答がやや多く見られました。

これは、このアンケートの実施時期がまさに進路希望を考えながら科目選択を決定する時期で、選択科目への関心が高まっていたうえに、教育課程の改定や希望者の少ない科目の閉講に伴って、結果的に選択できる科目の自由度が小さくなったことが関係しているのではないかと考えています。

これらを改善するためには、３年間を見据えた系統的な進路指導を一層充実させることで、生徒がこれまでより早めに希望進路を決定できる環境を整えること、ならびに、とりわけ３年進級時の選択科目の決定に向けて、より丁寧で明快な説明・指導が必要だと考えています。

また、進路ＨＲや情報提供などの進路指導に対しては、概ね７割近くの生徒が肯定的に回答してくれました。特に実際に進路実現に向けて行動している３年生で、役立つと捉えてくれている生徒が増えたことは、今年度取り組んできた進路指導が生徒の求めるものに近づいたことの表れと喜んでいます。

一方で、否定的な回答が、２年生に最も多く、３年生に対する実践的な指導や、１年生への情報提供に比べて、希望進路を固めていく時期の２年生へのアプローチが、生徒の満足度を高めるまでには至っていないのではないかと反省しています。

保護者の皆様は、学校が提供させていただいている進路情報や講習について、昨年度

より約１割向上し、８割近くの方が肯定的にとらえていただいていますが、２割強の方からは進路の情報提供や進学のための講習が不十分だという回答をいただきました。

学校が提供する情報や講習が、まだ保護者の皆様のご希望に十分には応えられていないと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

高校卒業時の進路選択は、一人ひとりの生徒の人生にとって、最終的な選択とまでは言えないものの、一つの大きな分岐点となるとても重要な選択だと考えています。

その選択が、何よりも本人にとって、きっちりとした理解に基づき、納得できるものとなるよう、「希望に応じた、コースや選択科目」はもとより、教育課程全体を見直すとともに、進路指導のさらなる充実に努めます。

具体的には、まず教育課程について、今年度入学生より新しい教育課程になりましたが、希望進路の実現をより効果的に後押しでき、より分かりやすく選びやすい編成となるようさらに検討してまいります。

あわせて、とりわけ２年、３年進級時の科目選択に際しては、一人ひとりの生徒が自らの希望進路に応じた選択が可能となるよう、教務部、進路指導部はもとより、学年団、各教科がしっかりと連動し、進路希望と強く関連付けた進路ＨＲを行うなど、十分に時間をかけてより丁寧に説明・指導するよう努めます。

また、生徒・保護者の皆様と教職員との意思疎通が十分に図れるよう、今年度の日程等の検証を行うとともに、科目選択の流れとポイント等を本校ホームページにも掲載し、保護者の皆様にも十分にご理解をいただき、お子様とともに選択科目の決定に関わっていただけるよう努めます。

進路指導の充実に向けては、今年度より新たに本校独自の「吹田進路プログラム」(*)を運用し始めたところですが、内容をさらに見直した上で、お子様の入学から卒業までの３年間を見通して、各学年での必要に応じた進路ＨＲを効果的に実施するとともに、より多くの教職員が一体感をもって進路指導にあたることができるよう、これまでの進路指導部・担任団に加えて、副担任も含めた学年団として企画・運営する体制とし、一人ひとりの生徒に向いあったきめ細かな進路指導に心がけます。

また、生徒に対する進路ＨＲの内容等を、同時に保護者の皆様にもお知らせできる方策を検討し、保護者の皆様にも十分にご理解をいただいたうえで、お子様とともに進路希望の決定に関わっていただけるよう努めます。

(*)現在の進路指導を、今まで以上に組織的・計画的に発展させた新しい進路指導計画のことです。

【「学校経営計画」における今年度の重点目標】

９　進学講習の定着・発展

■保護者へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問		はい			いいえ
13	平成23年から本校教員による進学講習に加えて、予備校の講師等による実践的な進学講習を導入しました。このことをご存知でしたか。	49.0%	------	------	51.0%

【学校の受け止め方（分析）】

外部講師による進学講習の導入については、保護者の皆様の認知度が昨年度に比べて上昇しており、少しずつ関心を持っていただいていると感じていますが、まだ半数の方にご承知いただけておりませんでした。

本校では、近年の生徒たちの規範意識の定着を踏まえ、全ての生徒が持っている資質・能力を最大限伸ばす指導の一つとして、進路指導、とりわけ進学志向の高まりに応えるべく、今年度入学生から「進学クラス」を設定するなど、進学指導においてきっちりと結果を出すことができる体制整備を新たな学校目標として掲げ、吹高の伝統復活に取り組んでいます。

しかしながら、学校で行う教育活動は、保護者の皆様にもしっかりとご理解をいただき、ご家庭においても共通認識に基づいてご協力・ご指導をいただくことで、より大きな成果につながるものがほとんどです。

保護者の皆様への情報発信をさらに充実させ、学校・家庭の総力を結集できる環境づくりが喫緊の課題だと受け止めています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

これまで、ともすれば進路指導部・担任団にとどまってしまっていた、生徒一人ひとりの進路希望や実力テスト等の情報を、できる限り教職員全体で把握するように努め、これまで以上にきめ細かく、より実践的な進学講習等を企画・実施します。

また、講習の実施時期や目的を明確にし、生徒はもとより、学年ごとの保護者対象進路説明会や進路講演会などをこれまで以上に企画・実施することで、保護者の皆様にも確実にお知らせします。

加えて、生徒に連絡物を配布する際にも、持ち帰って保護者にも必ずご覧いただくよう指導に留意させていただきますとともに、とりわけ進路関係の内容については、保護者の皆様も対象に、今年度からはじめさせていただいた「進路ニュース」の発行等を継続するなど、保護者の皆様への情報発信をさらに充実させます。

１０　その他

【アンケート項目と集計結果】

■生徒へのアンケート

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
16	本校の教職員の生活指導・進路指導には、先生によってバラつきがあると思いますか。	1年	38.0%	32.0%	21.2%	8.8%
		2年	34.6%	39.2%	16.9%	9.2%
		3年	39.8%	37.0%	17.3%	5.9%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
14	ご家庭で、お子さんが教職員による指導の差（バラつき）を話題にされることはありますか。	8.6%	24.4%	36.8%	30.3%

【学校の受け止め方（分析）】

教職員の指導に対して、生徒の７～８割、保護者の皆さまの３割余りの方から「バラつきがある」というご回答をいただきました。この数字は、昨年と比べて、大きな変化がみられませんでした。

あえて「バラつき」という曖昧でネガティブな表現を組み込んだ質問でしたので、いただいたご回答にもさまざまな意味が込められているものと拝察しますが、決して好感を示していただいたアンケート結果ではないと真摯に受け止めています。

とりわけ、日常的な指導において、学校としてきっちり守ろうと生徒たちに求めている規律や、大切な連絡事項等について、例えば、ある教職員は「見て見ないふりをする」が、ある教職員は「きっちりと指導する」という場面や、ある教職員は「丁寧に、思いを込めて伝える」が、ある教職員は「形式的で、はっきり伝えない」というような現状があるとすれば、生徒たちは混乱し、学校の指導全般に対して不信感を抱くことにも繋がってしまいます。

教育は、生徒と教職員の相互信頼という基盤があって初めて成り立つものであり、その信頼関係を損なう危険性については、小さなうちに回避・改善する必要性をあらためて強く感じています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

社会の移り変わりに伴い、教育課題もますます多様化・複雑化していく中で、学校だけですべての課題に対応することは困難な現状があり、「学校にお任せ」ではなく、まさに、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守り、育むことが不可欠となっています。

そして、そのような望ましい環境づくりの第一歩は、“目標を共有”することだと考えています。

大阪府立高校では、学校としての「めざす姿（長期的）」や、中期的（３年程度）目標、当年度の重点目標を整理したものとして「学校経営計画」を、さらに当年度の重点目標の詳細を整理したものとして「学校教育計画」を毎年策定しています。（以降、２つの計画を「計画」と記します）

これらは、学校のホームページにも掲載しており、いわば、社会に対する学校としての「約束」です。

本校では、これらの「計画」の策定にあたって、全教職員が意見を出し合う機会を設けるなど前年度の総括を丁寧に行い、足りないところやさらに改善していかなければならな

い点を明らかにしたうえで翌年度の「計画」を策定しており、この「計画」の達成に向けて、学校として一定の規律を守り、生徒に対して誠意をもって対応することを、すべての教職員の最低限のミッションとして申し合わせています。

一方で、生徒にさまざまな個性があるように、教職員にもやはり得手・不得手や個性があり、“行き過ぎて一律的な指導”に徹することは、人間同士としての相互信頼が原点であるべき教育において、逆に心の通わないものとなってしまうことも危惧されます。

それぞれの教職員により、それぞれの「味」があることは、「彩」のあるしなやかな指導につながるというメリットもあります。山の頂上に至るルートが１つだけではないように、それぞれの教職員がそれぞれの個性と得意な部分を最大限活かしつつ、同時に教職員集団（チーム吹田）として、謙虚に足りないところを自覚・補完しあい、大きな意味での「計画」達成に向けて取り組もうとしていることについては、ご理解を賜りたいと思います。

なお、具体的に指導のバラつきを少なくするには、当然のことながら教職員間の意思の疎通を一層図る必要があります。管理職はもちろんのこと、首席、各分掌（教務・進路・生徒指導・生徒会・保健）部長、学年主任等を中心に、分掌会議や担任会等、各種教職員間の会議において常に問題意識をもって、充分に打ち合わせをする必要があると考えています。

今後とも、保護者・地域の皆様からのご意見やご要望をさらに真摯に受け止め、教職員が一丸となって教育活動に専心してまいります。

お子様への指導に疑問やご質問がございましたら、「計画」自体に対する疑問等については教頭まで、日常の個別の指導に対しての疑問等については各担任、各部長や学年主任まで、小さなことでも結構ですので、お気軽にご連絡やご質問を頂ければ幸いです。

■生徒へのアンケート

【アンケート項目と集計結果】

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
17	あなたは、学校からの連絡を保護者にきちんと伝えていますか。	１年	20.5%	37.3%	21.3%	20.9%
		２年	24.7%	35.1%	23.6%	16.6%
		３年	22.9%	41.4%	19.7%	16.1%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
15	家庭では、お子さんと学校での出来事などについて話をされますか。	29.6%	44.6%	18.3%	7.5%
16	あなたは、文化祭や体育祭、授業参観、懇談会、進路説明会などの学校行事に参加されていますか。	14.0%	44.1%	26.6%	15.3%
17	学校からの情報や連絡（PTA活動を含む）は、お子さんやホームページ、メールマガジン等を通して把握していただいていますか。	37.1%	40.9%	13.6%	8.4%
18	学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通（意見や要望を聞く機会）をきめ細かく行っていると思われますか。	13.9%	49.7%	27.9%	8.5%

【学校の受け止め方（分析）】

学校での出来事について、７割以上の保護者の皆様が家庭で学校の出来事などの話が出

来ていると認識されていますが、生徒は、約４割が学校からの連絡を保護者に伝えていないと回答しています。これらの数字は昨年と比べて大きな変化はみられませんでした。

一方では、６割強の保護者の皆様からは、学校との意思疎通についてきめ細かく行われているという回答をいただき、昨年より１割程度上がりました。家庭ではお子様から充分に伝わっていない部分を、ホームページやメールマガジンなどを通して学校の様子をご理解頂けていることに大変感謝しています。

現在、無断欠席、頭髪、学校内での怪我や成績など生徒に何かあった時には保護者に連絡することを徹底しており、当然のことながら、本校では、学校と保護者の皆様とが協力しながら、生徒の指導にあたりたい、また、保護者懇談会や意見箱の設置など保護者の皆さまとの連携を大切にしていきたいと考えています。

今後もホームページやメールマガジンを充実させていきますので、引き続き、ぜひ忌憚のないご意見やご要望をお寄せください。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

今後も、ご家庭でのコミュニケーションを大切にしていただきたいと思います。

また、すでに記させていただきましたが、学校で行う教育活動は、保護者の皆様にもしっかりとご理解をいただき、ご家庭においても共通認識に基づいてご協力・ご指導をいただくことで、より大きな成果につながるものがほとんどです。

学校といたしましても、学校での教育活動に、より一層保護者の皆様のご理解・ご協力を賜るため、進路指導、教科指導、テスト、行事等の情報提供をさらにきめ細かく行い、相互の意思疎通を丁寧に行ってまいりたいと思います。保護者の方で疑問や質問がございましたら、遠慮なくご連絡ください。

また、高校生になると様々な理由で、文化祭や体育祭等の行事で保護者の方が来校されない場合も多いかもしれませんが、ぜひとも学校にお越しいただいて実際に生徒たちが活動している様子をご覧いただければ幸いです。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
19	こども未来専門コースでの保育園･幼稚園との連携をはじめ、吹田市立博物館等地域との連携、大学との連携、クラブ活動での中学校との連携、朝の挨拶運動などを積極的に図り「開かれた学校づくり」をめざした取組みに努めています。このような取組みは、今後さらに充実させたほうがよいと思われますか。	63.1%	32.5%	2.9%	1.4%

（新設設問）

【学校の受け止め方（分析）】

開かれた学校づくりをめざした吹田高校の現在の取組みに対して、９割を越える保護者の方から肯定的な回答をいただきました。吹田高校は開校以来、地域に愛され、地域に開かれた学校をめざして教育活動を展開してまいりました。特にここ数年は、その取組みを強めています。

具体的には、大学や中学校、幼稚園や保育園といった地域の教育施設との交流をはじめ、吹田市立の博物館とも「高博連携」を結び、施設見学に加え吹田高校での出前授業も実施

しています。

特に、こども未来専門コースの授業においては、地域の教育施設、社会施設だけでなく、地域のボランティアなど多くの方のご協力をいただいています。このような暖かい支援に支えられて現在の吹田高校の教育活動がなされていることを、大変ありがたく思っています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

これまで取り組んでまいりました地域との交流活動は、これからも引き続きおこなってまいります。また、来年度からは、こども未来専門コースにおいて新しく「保育実習」が始まります。これは、このコースを選択した生徒が、年間を通して毎週一回特定の曜日に、吹田市内の幼稚園や保育所に朝から夕方まで実習に行く授業です。

まさに、地域の教育機関にお世話になるわけですが、「地育地活」の言葉通り、吹田で育てていただいた吹高生が、将来は地元吹田で地域のために活躍できるようにしっかりと取り組ませたいと思っています。

専門コースの生徒だけでなく、吹田高校の生徒全員がこのような意識を持ち、開かれた学校づくりの主人公になれるように取り組みを充実させてまいります。

■生徒へのアンケート

質問			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
18	あなたは、学校に行くのが楽しいですか。	1年	19.2%	37.1%	19.6%	24.1%
		2年	28.7%	42.9%	13.8%	14.6%
		3年	38.0%	39.6%	12.4%	10.0%

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
20	お子さんは、学校が楽しいと言っていますか。	29.9%	38.8%	23.0%	8.3%

【学校の受け止め方（分析）】

学校が「楽しいか？」という、少し抽象的な質問でしたが、生徒の約６～８割、保護者の皆様の約７割の方が「学校が楽しい（と言っている）」という回答で、まずは少し安堵しています。

一方で、２～４割の生徒が「（どちらかと言えば）そうではない」という回答結果でもあります。

「何か具体的に楽しくない原因があるからなのか？」

「ほかにもっと楽しい居場所があるからなのか？」

「家庭では、あまり学校のことは話題にならないからなのか？」

いろんなケースがあると思いますが、もしも楽しくない場所に毎日通わなければならない状況に陥っているとすれば、これはとても辛いことだと思います。とりわけ、具体的な原因がある場合には、できればお気軽にご相談をいただければ幸いです。

これらの生徒の気持ちを考えると、学校としての取組みにまだまだ改善の余地があることを、しっかりと受け止めたいと思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

ともすれば、社会全体として、刹那的な「その場限りの楽しさ」を求めがちな風潮もある中で、学校としては、ぶれることなく「授業が分かり、学習することに充実感があること、学校行事に積極的に取り組み達成感があること、部活動に一所懸命に打ち込み、高い一体感や爽快感が感じられること、友だちとの人間関係において暖かみを感じ、友情を深めること等――これらのことを実現して『学校が楽しい』ものとなる」というメッセージを、生徒たちに発信し続けていきたいと思います。

学校には、様々な困難や事情を抱えた生徒もいますが、高校生という多感な時期に、学校という場だからこそ学び、身につけることができる、人生の中でも貴重な経験・体験を何よりも大切にできるよう、すべての一人ひとりの生徒がまっすぐに学校生活に取り組んでもらいたいと思います。

教職員といたしましても、今回の学校教育自己診断でいただきました様々なご意見を今後の教科指導、生徒指導、進路指導、学校行事、部活動、教育相談等、すべての学校での取組みに活かし、一致協力して「計画」の完全達成をめざして日々の指導に取り組み、生徒・保護者の皆様の本質的な意味での満足度をさらに向上させるべく努力してまいります。

今後とも、吹田高校の取組みに対しまして、引き続き深いご理解とご協力をお願いいたします。

■保護者へのアンケート

質問		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
21	本校では、昨年度より、この「学校教育自己診断」のアンケート結果ならびに、学校としての捉え方等をHP（ホームページ）に掲載させていただいています。このような取組みについて、今後もさらに充実させたほうがよいと思われますか。	53.0%	38.6%	5.8%	2.6%

【学校の受け止め方（分析）】

学校教育自己診断（結果・分析・対応）の HP 掲載について、90%を越える肯定的な回答をいただきました。本校における「アンケート ⇒ 集計⇒ 分析 ⇒ 対応 ⇒ HP 掲載」という本校の取組みが高く評価されたと喜んでいます。

今年度より HP のレイアウトを変え（学校紹介・行事の際の特設ページ新設等）、より多くの保護者の方が閲覧しやすいよう試行錯誤してまいりました。

アクセス数も毎日 100 件を越え、日々多くの方に様々な情報を閲覧していただいており、本当に感謝しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

今後も引き続き、学校教育自己診断の取組みをはじめ、その他多数の情報をより多く閲覧していただけるよう、トップページの充実を図ります。

具体的には「トップページの見やすさの向上（アピールしたいポイントをわかりやすく表示する）」「最高でも２～３アクセス以内で目的のページにアクセスできるよう、アクセス経路の整備」の２点を改善いたします。

大阪府立吹田高等学校　平成 25 年度学校教育自己診断
「自由記述」に対する「受け止め方」「指導の方向性」

【主に授業、講習・補習等に関して】

設問１３で、予備校講師による実践的な進学講習を導入とありますが、実践的な学習を指導できない教師の存在が問題だと思います。しっかりと大地に根をはりめぐらせる大木になるような一貫した指導のシステムの構築を望みます。

【学校の受け止め方】

生徒の能力を最大限に引き出し、進路希望の実現につなげる指導をご期待いただくとともに、本校におけるさらなる授業改善に向け、後押しとなる趣旨のご意見をいただき、ありがたく、また心強く感じています。

生徒に進路を切り開く学力をつけさせることは、学校として当然の責務です。ご指摘の通り、授業を基本として、進学講習や進路学習とのつながりを強め大学受験はもとより、人生全体を見据え、さらに充実した質の高い指導を提供できるよう、教職員が一体となって取り組んでまいりたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

本校では、これまでも授業を中心に据え、考査前の質問会や成績不振者には補習などを実施し、加えて進学希望者を対象とした発展的な講習を実施してまいりました。それに加え、3 年前からは、1 年次からの本校教員による講習を制度化するとともに、最新の入試傾向を取り入れた予備校講師による講習を導入しました。特に予備校講師による講習では、大学受験を強く意識してポイントを集中的に扱うという特徴があります。これにより生徒・保護者の皆様に受験に対する関心を高めていただくとともに、実際に受講生徒の多数が希望進路を実現しています。

さらに、今年度入学生からは、難関・人気大学への合格をめざすための「進学クラス」を開設しました。このクラスでは、普段の授業における生徒への要求水準を上げ、加えて土曜日に講習を実施しています(今年度は１回につき60分の講習を３時間分、年間23回)。さらに、放課後や夏期休業中にも、30 人を超える教員によって、全学年１学期から各種の進学講習を実施しており、参加生徒数も年々増加傾向にあります。昨年 10 月までは予備校講師による平日の講習を実施していましたが、本校教員による講習の広がりなどにより、一旦休止しています。

授業・講習以外にも様々な学習に主体的に取り組むことが大切であると考えていますので、今年度新たに「個別自習室」を設置しました。個別に仕切られたブースが 16 席あり、パソコンが設置されています。職員室にも近く、分からないところがあればすぐに教員に

質問ができますし、テキストを購入すれば予備校のＤＶＤ教材を活用して、この部屋で実践的な受験勉強もできます。また、わかりやすい授業づくりをめざして、ＩＣＴ機器を常備した講義室も整備しました。これからも引き続き学習環境のさらなる整備に努めてまいります。

（今後の対応）

このように学習環境が整いつつある今、吹田高校に求められていることは、ご指摘のように一貫した指導システムの構築と３年間を見通した授業計画の策定であると考えています。一貫した進路指導システムについては、今年度、進路指導部を中心にＳＳＰ（吹田進路プログラム）を策定しました。これにより、入学時からＬＨＲ等の時間を使って各生徒の進路希望にきめ細かく対応できる体制が整いつつあります。

一方、３年間を見通した授業計画については、「吹高学習スタンダード」という形に仕上げられるように現在取組みを進めています。「吹高学習スタンダード」とは、学校として３年間の各教科・科目の授業で何を扱い、生徒にどのような力を付けてもらいたいと考えているのか、講習や補習はどのレベルに設定するのかといった、各年次での学習内容と到達目標を盛り込んだ計画書です。

これまでも授業の進度や目標については、「シラバス」という形で教科・科目ごとに整理をしていましたが、大きな違いは、成果指標を明示することです。「吹高学習スタンダード」を作る過程を通して、当然、教員は今まで以上に入念な打ち合わせをすることになり、各教科・科目でさらに一体感を持った授業を展開することができます。また生徒の皆さんにとっても３年間の学習計画の全体像が明確に理解できますので、「この時期にはこれだけの力がつく」という見通しが立ち、日々の学習にも身が入りやすくなるだろうと期待しています。

特に講習に関しては、日頃から生徒の状況がわかっている教員が、受験につながる実践的な講習を実施するのが望ましいことは言うまでもありません。規模が拡大してきた進学講習を、より効果的なものとできるよう、講習の内容についてもさらに研究を深めてまいりたいと思います。また、同時に、昨今のめまぐるしく変化する入試傾向に対応するためには、予備校を始めとする教育産業が持つ情報やノウハウをうまく活用することもやはり有効な点があります。現在も、学習到達度をみるテストや外部模試の校内実施、前述の予備校ＤＶＤ講座の開設などを行っており、今後もさまざまな形で取り入れながら、学習指導・進路指導のさらなる充実を図ってまいります。

・授業中がうるさい。先生が静かな授業にして欲しい。
・授業がおもしろくない。
・授業中の雰囲気をよくする。

・全員ではないが、先生の授業がとても雑である。
・プリントを使っての授業が多い。書く動作が少なく話を聞くだけになり授業が眠くなる。
・寝ている生徒を積極的に起こす。
・先生によって宿題を出す量が違う。合わせて欲しい。
・教科によって先生がかわるとわかりづらくなった、成績が下がった、クラブ顧問の心ない言葉で傷ついた。生徒は先生を選べないので、教職員の指導もしっかりして欲しい。

【学校の受け止め方】

授業は、まさに学校の根幹をなすものであり、教員間の最低限の合意としても、私語など授業態度に問題がある生徒に対しては必ず注意し、整然とした授業に努めることを申し合わせています。

しかし、残念ながら今回のアンケートで**教員による個人差**があるというご指摘をいただきました。真摯に受け止め、早急に改善が必要だと感じています。授業中の私語により、学ぶ意欲が低下することは十分に考えられることであり、しっかりと学びたいという生徒の声を大切にするのは当然のことです。

また、教員によって宿題の量に差があるというご指摘をいただきました。同一の教科・科目では基本的には、同一の教材で授業を進めており、授業進度や考査範囲については入念な打ち合わせをしておりますが、ご指摘を全教員で共有し、あらためて担当教員による差をなくすように努めてまいりたいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

現在、教員は可能な限り授業開始時までに教室に行くように努め、机上の整理はもとより、携帯電話の注意をするなど、授業開始時の環境整備に心がけています。

すぐには静かにならない時もありますが、それぞれの教員が適切な方法で、粘り強く、静かになるまで注意を続けるよう意思統一をしています。

また、個人の力量のみで対応が困難な場合には、教科や学年の教員も関わり、生徒たちが授業の大切さを理解し、自ら授業態度を改善していくよう、働きかけを続けています。

授業改善に向けた学校の具体的な取組みとしては、全ての教員の授業について、年に２回（７・12 月）の授業アンケートを実施し、生徒の声を受けとめようと努めています。

１学期末のアンケート結果は、２学期以降の授業改善につなげられるよう、個人はもとよりその科目・教科を担当する教員間で分析を行い、それぞれに改善策を打ち出しました。さらに、各教科から出された改善策や工夫を教員全体が共有し、生徒の授業に対する声に応えられるように努めています。

また、「授業見学週間」として、教員が相互に授業見学をする期間を設け、見学後には気づいた点や授業改善に向けたヒントを出し合うなど、互いの授業力向上に向けて、アドバ

イスを交換する機会も設定するなど、日々授業力の向上に努めております。

（今後の対応）

日々の授業が行われている教室では、生徒たちがお互いにそれぞれを大切だと捉え、気持ちよく授業時間を過ごせるよう、引き続き丁寧に注意を行います。まずは静かな教室で、しっかりと授業を受けられる環境づくりに努めます。静かな環境でしっかりと学習したいと望んでいる生徒は多数います。しかし、一方で残念ながら一部の生徒のその時々の小さな自分勝手な行動の積み重ねにより、全体としては真剣に打ち込みにくい状況となっている授業があることをご指摘いただきました。

より多くの生徒が授業に興味をもてるように、教員が自らの授業技術を磨くとともに、授業中の私語に対して厳しく、そして粘り強く注意することなど、あらためて、授業と休み時間のけじめをつけ、授業に向かう姿勢を確認します。また、すべての教員が同じように指導できるよう、教職員が一丸となって生徒をバックアップするという意識の向上と、そのための体制づくりをさらに進めていきます。

繰り返しになりますが、現在吹田高校では３年間を見通した授業計画を「吹高学習スタンダード」という形に仕上げられるように取組みを進めています。これを策定することによって、教員によって教え方の特徴・個性はあれども、その年度での学習するべき内容を揃えることができます。授業担当者間では、「吹高学習スタンダード」に基づいて今まで以上に入念な打ち合わせをして、足並みを揃えた授業の展開に努めてまいります。

【主に進路指導に関して】

・ルールを厳しくするだけでは学校は良くならない。関関同立をめざすのならば勉強の質を上げる必要がある。学校が終わってからの勉強だけでは不十分である。
・進学クラスの取組みは本当に良かったと思います。又、関大のネックレスセミナー、模試など子供はとてもやる気を出して頑張っています。希望の大学に入るにはどういう過程で何を勉強すればいいのか今後もご指導頂ければと思います。

【学校の受け止め方】

本校の進学状況が、より生徒の希望に添うものになることを期待し、後押しをしていただくご意見をいただいたと喜んでいます。

授業を基本に、進学クラスの生徒のみならず、生徒のモチベーションを上げながら、生徒の持つ能力を最大限に引き出せるよう、教職員が一致団結して生徒の学力向上に取り組ませていただきたいと考えており、まさに本校が重点的にめざす方向と一致するご意見で、心強く思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

本校では、共通科目の授業では主に基礎、基本の定着を図り、理系進学コース・文系進学コースの選択科目を中心に受験に対応するための内容を取り扱っています。また、家庭学習の習慣を定着させるため、宿題を課し、予習・復習の継続的な指導を行っています。

さらに、前述の通り、全学年で１学期から放課後の進学希望者向け講習を 14 種類開講し、13 種類の夏期講習、加えて予備校講座なども実施してきました。今年度よりスタートした１年生の進学クラスでは土曜講習も継続的に行っています。授業や講習で培った力を試し、学習の指標とすべく、外部模試を年３回（３年生は２回）校内で実施し、結果説明会も開催いたしました。

進学先を知る取組みとしましても、ご指摘の１年生進学クラス生徒を対象とした関大ネックレスセミナーの他にも、すべての学年で学年全員を対象とした、進路分野別体験学習や模擬講義、説明会のいずれかを実施し、生徒が大学等での学びに対して具体的なイメージを持てる機会を設けています。

１年生では、遠足において、京都大学を訪問してキャンパスの空気を直に感じる機会を設けました。このように学校としては希望する進学が実現するよう新たな取組みを精力的に進めております。

（今後の対策）

授業内容につきましては、授業研究・教材研究に取り組み、さらなる質の向上を図らせていただくことで、生徒一人ひとりの学力を伸ばし、すべての生徒が第一進路希望を実現できるよう、授業改善を学校としての重点課題と位置づけ、さらに精力的に取り組んでいきます。

上の項目でも述べさせていただきましたが、現在吹田高校では３年間を見通した授業計画を「吹高学習スタンダード」という形に仕上げられるように取組みを進めています。これによって、教員によって教え方の特徴・個性はあれども、その年度での学習するべき内容を揃えることができます。授業担当者間では、「吹高学習スタンダード」に基づいて今まで以上に入念な打ち合わせをして、足並みを揃えた授業の展開に努め、学校全体として授業の質の向上を図ります。

各種講習につきましては、来年度以降、学校生活がスタートする４月から直ちに開始するなど、時宜を逃さず生徒の学習意欲の喚起を図るとともに、引き続き各学年での講習内容の充実を図ってまいります。保護者の皆様からもお子様に対して積極的な講習の受講をお勧めいただけましたら幸いです。

また、学校で学んだ事柄をしっかりと自分のものにするには、家庭学習が欠かせません。ご家庭でも、お子様が自分で机に向かえるよう、ご指導をお願い致します。（本年度新設した「個別自習室」の活用もお勧めください。）

進路学習に関しましては、今年度より取り組んでおりますＳＳＰ（吹田進路プログラム）の内容を検証し、さらに生徒・保護者の皆様に納得していただけるシステムとなるよう、内容を充実させてまいります。

生徒の進路実現に向けてご家庭・学校が一体となってサポートしていきたいと思っています。ご家庭におかれましても、ご協力をお願いします。

・生徒たちからの相談を待つのではなく、担任が声かけを日々行っていただきたい。一般で受験する生徒は、卒業してから学校から何も支援を受けることができないと聞いたことがあるが、本当であれば不安だ。
・公務員になるための情報をもっと勉強してほしい。
・進路の情報が不明である。担任が把握していない。
・１年生の時から進路指導をきっちりしてフリーターを生み出さないようにして欲しい。
・担任は専門学校に対する偏見を持っているように思う。

【学校の受け止め方】

本校生徒の進路希望はきわめて多様であり、一人の教員がすべてに精通することがなかなか困難であることは否めませんが、学校として、教職員、とりわけ生徒に直接指導を行う担任をサポートする研修が十分ではなかった点があると反省しています。

いただきましたご指摘を真摯に受け止め、これまでの進路指導と教員研修をあらためて検証し、各教員が進路についての研鑽をさらに深めた上で、より高い頻度で様々な角度から進路指導を行ってまいります。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の取組み）

今年度は、吹高での３年間を見通した指導指針である「吹田進路プログラム（ＳＳＰ）」を策定しました。この指針に基づき、１・２年生の進路ＨＲ、３年生の進路ガイダンスとも回数を増やし、配布する資料も新たに作成し、充実させてまいりました。

また、従来３年生になってから実施しておりました保護者説明会を、１・２年生に対しても 10 月の科目選択決定までに実施させていただくなど、改善を図ってまいりました。

個々の生徒の状況につきましても、今年度は４月、８月に業者のデータが活用できる検査を導入し、客観的な分析結果から進路を考える一助とさせていただきました。１月にも同様の検査を行いました。結果についてはできる限り迅速に生徒に返却いたしますので、ご家庭でも進路希望決定の参考として役立てていただき、生徒・保護者・学校の三者が、まさに生徒たちの進路希望実現に力を合わせていく道標としてご活用いただければ幸いです。

また、校内では、担任を中心として、一人ひとりの生徒の状況を時間経過とともに把握し、客観的データも用いながら、個々の生徒の進路希望に添って、その実現に向けた指導を行えるよう、教員向けの統一した進路指導用資料を作成中であり、今年度中には完成させる予定です。

（今後の対策）

年々変化する進路指導に関して、すべての教員が正しい知識を持ち、効果的な指導を行えるよう、来年度も教員研修をさらに充実させていくとともに、一人ひとりの教員が生徒の立場に立って、機会あるごとに進路に関する情報を蓄えていくように心がけてまいります。

すべての生徒が希望する進路を実現できるよう、学校・家庭が一体となってサポートさせていただきたいと考えていますので、引き続きお子様の進路実現に向けて大きな関心をお持ちいただきますとともに、疑問や不安につきましては、お気軽に学校にご相談いただきますようお願いします。

なお、本校では卒業生の方にも、調査書や推薦書の発行にとどまらず、いつでも受験方法や志望校選びなどさまざまなご相談をお受けしています。予約奨学金の申込も、卒業後２年間は、出身高校を通じて行うことになっています。お尋ねがございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

【主に生徒指導に関して】

・体育の授業のときにお金を盗られた件でお金は返ってこないので諦めてほしいとのことでしたが納得いきません。防犯カメラを設置することにも問題があるのかもしれませんが、犯人にとっても良いこととは思えません。お金に裕福な家庭ではないですし、バイトで稼いだお金です。この件について、改善していただきたいです。
·部活の時にお金をとられる人が多すぎます。もう少し、対処して頂きたいと思います。
・盗難があれば警察に言うべき。これは立派な犯罪である。

【学校の受け止め方】

学校は「教育の場」として、何よりも安全で安心して学ぶことができる環境でなくてはなりません。ところが、今年度、少なくない件数の盗難が起きてしまいました。盗難にあわれた生徒ならびに保護者に対しましては、心より、申し訳なく感じております。

もちろん窃盗は許すことのできない犯罪であり、早急な対策が必要だと考えています。しかし、一方で犯人を特定することは非常に難しく、万一、間違って犯人扱いをしてしまった場合、取り返しのつかないことにもなりえます。

また、教育現場に警察が介入することは生徒たちの動揺を招く恐れもあり、防犯カメラにつきましても個人情報等の観点から設置することはいかがなものかと考えています。

これらのことから、現時点では、学校としては、盗難を未然に防ぐために貴重品の自己管理を呼び掛けているところです。

【指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

生徒の自衛の意識を高めることで被害をなくすことはできないかと考え、盗難が発生した時にはできるだけ早く全校集会を実施するよう努めました。

全校集会で生徒に話した内容は以下の通りです。

①人のものを盗むという行為は「犯罪」であり、絶対に許されるものではないこと。

②盗難の事実や詳しい状況を知らせることで注意を喚起し、他に被害がないかを確認。

③盗難防止のため、不必要な金銭を持ってこないこと。また、持参した場合には自分で管理する必要があるということ。

被害が出るたびに全校集会をしたことで、自分のものを自分で管理しようという意識を持って行動できる生徒も増えています。教室移動時に自分の荷物を持っている生徒も見かけるようになりました。体育の時間など自分で身につけることができない時には、教員が預かることになっています。しかしながら教員に預ける生徒は限られているのが現状です。

（今後の対応）

状況がさらに悪くなるようでしたら、警察等との連携も考えざるを得ないものと認識していますが、まずは、盗難が起きない（起こせない）環境づくりに取り組みたいと考えています。

いずれ社会に出れば、残念ながら、生徒の皆さんも吹高在学時以上に「自分のものを自分で管理する」能力が求められます。このことも踏まえて、「大切なものは自分で管理する」ことの重要性についての意識を高めることができるよう、学校としては、引き続き、全校集会やポスターなどを通じて、盗難が起きない（起こせない）環境づくりを呼びかけていきたいと考えています。

ご家庭でも、不必要な金品を持ってこないことや、教室移動の際には、貴重品は教室に置いたままにしないなどの声かけをお願いします。

「登下校における自転車のマナーが悪い。指導を強化してほしい」

【学校の受け止め方】

本校では、自転車を利用しての通学者は全体の 92%にのぼります。登下校の自転車マナーについては、多くの外部の方からのご指摘をいただき指導の強化が必要だと認識していますが、他校に比べても本校生徒の自転車通学の範囲は広く（まさに 360°さまざまな

方向から登校しています）ご期待にお応えできるような効果的な指導はできていないのが現状です。

自転車通学マナーについては、本校のみならず、府内全校で問題になっている課題であり、各校とも工夫を凝らした指導を続けており、本校でもさらにマナー向上に向けた取組みが求められていると認識しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の取組み）

生徒の安全確保、マナーの向上に向けて、現在学校では以下の指導を実施しています。

１．毎朝の指導
　校門前――信号の遵守・斜め横断禁止の徹底などの通学安全指導
　近隣スーパー信号前――歩道走行の安全確保・信号遵守・車道逆行に対する注意
　自転車置き場――整列駐輪指導

２．１年生を対象に、吹田警察交通課から講師を招き、交通安全講習会を実施

３．外部からご指摘をいただいた時には、直ちにその事象に即したマナー啓発ポスターを作成し、担任を通じてHRで注意喚起。さらに臨時で校外巡視等

（今後の対策）

生徒・周辺住民の皆さん相互の安全確保、気持ちよい通学マナーの向上をめざして、今後とも以下の取組みを通して、生徒のマナーアップに取り組みます。

１．吹高生、自転車通学マナーアップ・キャンペーン
　生徒たちの通学路で、外部からご指摘のある場所や危険個所などに教員がのぼりを持って立ち、自転車マナー向上に向けて注意喚起を行います。

２．HRを通じて道路交通安全に関する交通ルール問題を解かせるなど、安全運転の意識を高める指導を随時行います。

法律改正など、自転車事故の自己責任・補償が言われる中、学校としいたしましてもさらに効果的な指導を模索し、実践してまいります。

保護者の皆様におかれましても、生徒が「被害者にも加害者にもならない」よう、引き続きご家庭で自転車マナー向上の重要性について話し合われる機会をお持ちいただくなど、ご指導いただけますようお願いします。

・自転車が壊れたり事故（自転車でこけた等）の時は、遅刻指導は必要ないと思う。
・大切な物を落として探して遅刻した時は、理由を説明して遅刻指導なしにしていいと思う。
・理由ありの遅刻で反省文を書かせる意味が分からない。
・体調が悪い時に１,０００字を書かせる意味が分からない。

・病院に行ってからの指導は意味が分からない。

【学校の受け止め方】

遅刻指導に関する正確な説明が十分に伝わっておらず、保護者の皆様に誤解を与えてしまい申し訳ございませんでした。

本校の遅刻居残り指導におきましては、正当な理由等を確認できる場合には、一律に居残り指導を課しているわけではありません。

書写指導を回避するために無理・無謀な自転車運転を行い、事故を誘発するような状況に陥いることは、まさに本末転倒です。

一方で、社会に出れば遅刻はその人に対する信頼を大きく損ないます。

本校では、入学当初より、生徒に対して規範意識を高めると同時に基本的生活習慣をしっかり身につけてもらおうと考え、遅刻に関しては厳しく指導しています。

その結果、遅刻数は大幅に減少し、朝一番から学習に向かうよい環境が整備されてきました。

しかし、依然として、書写指導を回避したいがために、自分勝手な理由で無理のある言い訳や事実と異なる主張をする生徒がいることも、残念ながら現実です。

ご面倒ですが、今しばらくは、やむを得ない理由等が生じた場合には、できるだけ保護者からご連絡をいただけますようお願いします。

【指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

やむを得ない原因や正当な理由がある場合は、保護者からの連絡や生徒本人の事情を考慮して居残り指導を減免するよう、教員間で確認をしています。

例えば通院による遅刻・早退の場合には保護者からご連絡をいただくか、受診先の領収書を持参していただくなど、担任に申し出るようお子様にお伝えください。

怠けや寝坊による遅刻とやむを得ない理由の遅刻とは区別しており、生徒が遅刻した場合、教員側が遅刻理由をしっかり聞くようにしております。理由次第では 200 字の反省文は課さず、「訳あり 500 字」という対応もしています。病院への通院であるとか交通事故等では、もちろん 1,200 字の指導は課しておりません。

（今後の対応）

無理・無謀な自転車運転は、まさに重大な事故等を招く危険性が高く、決して行ってはいけません。

生徒たちを「被害者にも、加害者にもしない」で済むよう、くれぐれも安全第一である旨、学校でも引き続き指導させていただきます。ご家庭でも重ねてご指導いただきますようお願いします。

一方で、寝坊や忘れ物など自らの過失で遅刻した場合には、書写指導を受けていただく

しかないと思います。

ご家庭におかれましても、通学途上の多少のトラブルが直ちに遅刻に結びつかないよう、時間に一定のゆとりを持って自宅を出るように働きかけていただくなど、一層のご協力をお願いします。

今後も生徒に理由を聞いた上できちんと対応していきたいと考えております。

・染髪同様、服装（スカート）や女子のメイクもご指導願いたいです。
・設問２の髪を染色禁止は反対と言うことではなく、なぜ髪の色だけにこだわるのかが不思議。化粧、ネイル、ピアス等は全く自由なのに髪の毛だけ統一の無いところが不思議。
・遅刻･毛染だけを禁止するのでなく、ピアス･化粧なども禁止にすべきだと思います。

【学校の受け止め方】

【近年の生徒指導の経緯】

本校では、平成 22 年度９月から頭髪強化指導を行い、現在、金髪・茶髪の生徒はほとんどいなくなりました。現在の頭髪指導は、黒く染め戻した生徒の色落ちに対する指導が中心となっています。

遅刻指導については、平成 23 年度の１年生から、遅刻した場合その日に即居残り 1,000 字書写指導を行い、平成 22 年度の１年生に比べ、遅刻数を３分の１程度に減らすことができました。

その指導を 24 年度から全学年で採用し、現在は学校全体でも 23 年度のさらに３分の１程度にまで遅刻数が減少しています。

携帯電話指導は、24 年度から、授業中の使用に対して１回目の注意で預かり指導（1,000 字の反省文指導）を実施しています。

高校生らしくない服装や化粧などは、ともすればお子様たちを社会に潜むさまざまな危険にさらすことにもつながりかねないものと心を痛めています。

しかし、かなり改善されつつあるとはいえ、残念ながら本校において必要と思われる生活面の指導（遅刻・服装・頭髪・化粧・アクセサリーなど）は、依然として多岐にわたっています。また、不本意ではありますが、１日に数十人の生徒を指導することもあります。

このような状況のもと、すべての指導に一斉に取り組むことで、逆にすべての指導が中途半端な指導になりかねないというジレンマに陥っているのが現状です。もちろん、学校として現在の生徒の状況を是認しているわけではなく、現在は主に遅刻指導に力を入れています。

遅刻指導が定着し、落ち着いた学習環境を整えたうえで、新たな一つひとつの指導に、順次、重点的に取り組み、できる限り早急に高校生らしい節度のある身だしなみを徹底さ

せたいと考えています。

【指導の方向性（対応）】
（現在の取組み）

１．黒・紺・ベージュ・グレー以外のセーター・カーディガン・ベストの預かり指導
２．校内でのスカート下ジャージの預かり指導
３．これ以外の違反服装の預かり指導
４．放課後、校門でのブレザー着用チェック

温度調節としてブレザーの内にセーター・カーディガン・ベストを着用することは認めていますが指定の色以外は禁止です。また、パーカーをブレザーの内に着ることは認めていません。着用したい場合は、ブレザーの上から「防寒具」として着用し、校舎内では脱ぐことになっています。スカート下のジャージの着用も認めていません。防寒対策にはタイツ又は女子用のスラックスを利用することになっています。

制服については指導強化期間を設け、服装違反に対しては、一定期間その服の預かり指導を実施しています。

ミニスカート・化粧・アクセサリーについては、まだ指導強化等は行っていませんが、今後、どのような指導で対応していくことが効果的か、現在検討中です。

（今後の対応）

生活面の指導を毎日行うことで、生徒たちの自覚も徐々に高まりを見せ、生徒会執行部でも自ら遅刻撲滅や服装違反の撲滅に取り組もうとし始めており、嬉しく感じています。しかし、まだようやく緒に就いた段階です。

学校としても、ＴＰＯを意識した高校生らしい身だしなみについて、引き続き粘り強く生徒たちを指導してまいりたいと考えていますが、社会的な風潮とも相俟って、保護者の皆様のご理解、ご協力なしにはこれらの改善は達成できません。

生徒はよく「これくらい、みんなやってる」といったことをご家庭で話すと思いますが、そんなことはありません。

また、「学校が厳しくしてくれないから、家庭でも禁止しにくい」というお話をお聞きすることもありますが、これは「鶏と卵」のような関係で、どちらが先ということではなく、意識をお持ちいただいているご家庭が、学校とともに粘り強く指導させていただくことが、この悪循環を断つ最善の方法だと考えています。

くどいようですが、学校は決して生徒の好き勝手な行動を認めているわけではありません。

個性は大切ですが、高校生として学校に来る際の「身だしなみ」や遅刻等の学生の本分にもとる行為につきましては、ご家庭におかれましても、お子様が家を出かけられる際、高校生としてふさわしい身だしなみかどうか、ご確認・ご指導いただくなど、さらなるご

協力をお願い致します。

・遅刻する度に 1,000 字書かせるより退学のほうがいい。
・遅刻指導の 1,200 字を 2,000 字に増やしたら生徒は頑張って来ると思う。
・もっと厳しくして欲しい。文字数が少ない。指導が甘い。停学でいい。

・寝坊して 1,000 字を書くのが嫌で休みがちになる。逆効果になる。
・1,000 字を書いても遅刻は減らないから、いらないと思う。

・遅刻即居残りの書写（1,000 字）指導は、全学年同じ基準でやってほしい

【学校の受け止め方】

遅刻に対する指導に関して、様々な観点からのご意見をいただきました。

社会に出た時に、遅刻を繰り返せば信用を失うということは、大人であれば誰しも実感できていることだと思いますが、まだ実際に社会に出た経験のない生徒にとっては、実感として理解しにくいものかもしれません。

遅刻のペナルティとして１,０００字の書写が妥当かどうか、またその適用の厳格さや効果等については、教員間でも意見が分かれているところですが、ようやく遅刻が減少し落ち着きつつある本校においては、「遅刻をしないことが当たり前」という認識が完全に定着するまで、今しばらくは、遅刻に対する実質的なペナルティが、目に見える形で課せられることが必要だと考えています。

２００字の反省文は、自分の行動を言葉にして振り返る機会であり、それを媒体にして、教員と会話をします。生徒それぞれに事情があり、そのことを教員に伝えつつも、改善すべき点を確認する機会となっています。今のところ生徒の中にも、「遅刻したら１,２００字」が１つの形として定着しているものと思われます。

遅刻を繰り返す生徒に対して、遅刻指導の効果を疑問視する生徒が増加していることが学校自己診断アンケート（生徒用）の結果からもうかがえました。しかし、大半の生徒にとっては、やはり書写１,０００字は避けたいものであり、それがあるから、少し余裕を持って家を出る生徒がいるなどやはり効果はあるものと考えています。

書写１,０００字は少なすぎるのでは？というご意見も多数いただきますが、書写１,０００字は罰することが目的ではありません。あくまでも指導の一つの形態であり、ここから指導を始めていく取っ掛かりになるものです。より効果的な方法をこれからも模索していきます。

ご家庭でも、始業時刻に合わせて弁当を作り、送り出すなど、日頃から多大なるご理解

ご協力を賜っているところですが、時には遅刻を繰り返すことのデメリットなども話題にしていただけると、生徒も社会の生きた教訓として受け止めることができ、教員からの指導とはまた違った効果があるのではないかと思います。

【指導の方向性（対応）】

（現在の取組み）

現在、教務上（記録に残る）の遅刻は 3 学年とも８時４５分ですが、居残り指導の対象は、今年度より、全学年８時３５分からとしました。朝ガク（朝ＳＨＲ）を実施していますので、居残り指導の基準も全学年で８時３５分に統一することができました。

遅刻の基準を８時３５分としたことで、８時４５分からの１時間目の授業が落ち着いた雰囲気で開始できるなど、生徒の高校卒業後を考えた時にもよい影響があると思える状況になっています。

（今後の対応）

始業前の朝ガク（朝ＳＨＲ）の実施は、遅刻防止に効果があるだけでなく、授業に向かう生徒の気持ちを整える意味でも極めて有効で、授業の開始もスムーズです。気持ちよく学校生活をスタートさせられるよう、一人ひとりが自覚を持って行動してほしいと考えています。

遅刻指導は、来年度も反省文２００字と書写１,０００字を基準として継続実施する予定です。その中で、遅刻を繰り返す生徒に対しては、遅刻回数の少ない生徒とは分けて指導を考えていく必要を感じています。より多くの教員が関わっていきながら、今まで以上に丁寧な話し込み指導と、また違った方法でのアプローチをしていくつもりです。

遅刻といっても大幅な遅刻をする生徒は少数であり、そのほとんどが１０分以内の遅刻です。心の持ち方一つで変えられるような遅刻であるからこそ、なかなか改善できない現状を、変えていけるような指導方法を今後も模索していきたいと考えています。保護者の皆様におかれましても、効果的な指導法やご意見がありましたらお寄せください。

・頭髪指導の基準を先生の中で合わせて欲しい。
・頭髪指導の基準を３学年で合わせて欲しい。
・頭髪指導は校則だから仕方ないが、頭髪指導の基準を先生の中で合わせて欲しい。

・明らかに染髪した生徒と、もともと髪の色が茶色がかった生徒とを同じ内容で指導をするのはどうかと思う。
・頭髪指導で地毛が茶色い場合も染めるという指導は個性を無視したもので、いきすぎだと思います。

【学校の受け止め方】

校内でのあらゆる指導においては、すべての教員間でできるだけバラつきがないようにと努めています。

特に頭髪指導においては、ヘアースケール（色見本）を用いて 3 学年で指導の基準を定めています。頭髪指導は 3 年間を通じて継続的に行っているものであり、生徒の事情を考慮しながら取り組んでいます。

そのため、頻繁に染髪（黒染めを含む）をしていて、髪や頭皮に過重な負担がかかっている場合は、体調面を考慮し、個別の対応をさせていただいています。

従って、是正する時期は、学年間や個人でバラつきがあったとしても、指導対象にも関わらず指導を受けないままの生徒がいるということはありません。そういう意味では、学校としての基準は統一しております。

学校といたしましては、本校生徒全員が高校生活を第一と捉え、社会の様々な誘惑に惑わされず勉学に取り組んでもらうためには、以前に比べるとかなり改善されたとはいえ、残念ながらまだ染髪禁止の頭髪指導を続ける必要がある状況だと判断しています。

【指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

本校では、生まれつき茶色っぽい髪色であったり、特別な事情がある場合には、入学時に、本人並びに保護者に申し出ていただく機会を設け、事実確認ができた場合には、必ずしも完全に一律の対応はしていません。

現在、指導対象となっている生徒のほとんどが一度染めてしまった後の、染め戻しによる色落ちの指導です。

一度染めてしまうと、黒く染め戻しても時間がたてば赤く色落ちすることがよくあり、卒業するまで頭髪指導を受け続けなければならない事態にもつながりますので、ご家庭においてもまずは染めないようご指導のほどよろしくお願いします。

（今後の対応）

特別な事情がない限り、高校生にとって染髪は不必要だと考えています。

最終的には、生徒たちが高校生としての自覚を持ち、自ら行き過ぎた染色等を行わず、できるだけ近い将来に頭髪指導自体が不要となることを期待していますが、当面は生徒指導部を中心にして学年間のバラつきをできるだけなくした指導をしていきたいと考えています。

・携帯の預かり１,０００字指導をする意味が分からない。
・携帯が鳴って、誰か分からない時に全員１,０００字はおかしい。意地でも見つけたらいい。

・携帯の預かり指導は、もっと厳しくするべき。
・携帯の預かり指導は、余計に授業に集中できない。
・マナーモードにしていなくて、でも触っていなくて取り上げるのは理不尽だと思う。
・昼休みを除く休み時間は携帯電話を使用禁止にして欲しい。

【学校の受け止め方】

府立高校では、原則携帯電話は持ち込み禁止とされていますが、本校では、生徒の自主性を重んじ、携帯電話を校内持ち込み可としています。授業中はもちろん使用禁止とし、電源を切って鞄の中に入れておくことを原則としています。そして、授業中の携帯電話使用はもちろんのこと、電源の切り忘れにより着信音が鳴っても預かり指導の対象となります。

預かり指導と反省文によって、授業中の携帯電話の使用は数年前に比べて大幅に減少しています。携帯電話を触っていないのに、電源の切り忘れ等によって鳴ってしまった場合、それでも預かり指導に該当するということは厳しすぎると感じられるかもしれませんが、自由には責任が伴うことをきっちりと学んでもらいたいと考えています。

電源の切り忘れにより着信音が鳴った場合、ほとんどの場合は該当の生徒から申し出がありますが、まれに申し出がなく、着信音を鳴らした生徒が不明の場合があります。その時にはクラス全体の生徒に対して、申し出がない場合には全員で反省文を書いてもらうことを知らせて呼びかけをします。それは鳴らした者に対して皆に迷惑をかけていることを理解してもらい、決してごまかすことのないようにしてもらいたいからです。その結果、ほとんどの場合には申し出てきますが、残念ながら申し出なかったこともありました。その場合にも上記のような理由で今後の影響を考えて全員に反省文を書いてもらったことがあります。

【指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

反省文を書いた生徒は、その反省文を持って何人もの先生（学年・教科担当・生徒指導部）に読んでもらって話をし、納得できない部分は文の中に書いたり、直接先生に疑問をぶつけたりしながら、いろいろな人の考えを聞くことになっています。自分の中で自分がしたことを振り返って、その上で、人の意見を聞く機会を持つ意味は大きいと考えています。

（今後の対応）

自分で自分を律すること、自律した生徒を育むことが、本校のめざすところで、とりわけ、高校生にとって、授業は何よりも大切にすべきものであり、その大切な授業に対しては、携帯電話の管理をはじめ、生徒自身が高い意識を持って自らの責任を全うし、集中す

ることのできる環境を作り上げていってもらいたいと考えています。
　このような思いから、今後も授業中の使用はきっちりと指導し、授業の秩序を維持することを最優先に考えていきます。

【主に生徒会活動に関して】

・今年の文化祭に参加した娘は「協力」する生徒の意識の違いをよく話していました。各個人それぞれに、理由や事情はあると思いますが協調性を育てるためにはもう少し指導があっても良かったのでは？と感じました。

【学校の受け止め方】
　文化祭のクラス活動についての「協力体制」に関して、ご家庭でお話されたようで、嬉しく思います。
　集団で何かの目標に向かって行動していくときに、個々の意識の違い、取り組む姿勢の差が表れるものだと認識しております。
　文化祭のクラス活動においても、こういったものが表れるのだと思います。文化祭を楽しむために、自主的・積極的に頑張ろうとする生徒もいれば、消極的で非協力的な生徒もいるのが残念ながら事実だと思います。
　ただ、すべての生徒の根底には、大なり小なり、文化祭を楽しみたい、自分にできることがあれば何かしたい、頑張りたい、という気持ちはあると考えています。それを言葉に出せなかったり、態度に示せなかったりするだけで、必ず、前向きな気持ちになり得る素養は誰しもが備えているのではないかと思います。
　そこで重要なのが、クラス内での友人との関わりです。他者との関わりの中で、自主的・積極的に協力しようという姿勢が芽生え、クラス全体として協力的な雰囲気ができあがるのだと思います。こういった観点で考えたとき、生徒たちの協力体制をつくるきっかけづくりとして、教員がいかに関わっていくかが大切であると考えています。
　何もかもを教えすぎないように、でも常に気を配り、適切なサポートをする。そういう適度な距離感が、生徒の自主性・積極性を育むことになり、より充実感を得られるのではと考えています。こういった観点を基に、今回、ご指摘いただいたご意見を考えますと、我々、教員の関わり方にやや不十分さがあったのかもしれません。おそらく、その原因は、文化祭の活動を通して「生徒とどのように関わっていくべきか」という点に関する、教員間の意識共有の不足にあると考えています。教員間の意識共有が不足しますと、結果的に、個々の教員の意識に委ねられることになり、クラスにおける指導方法にバラつきがでたのかもしれません。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】
（現在の対応）
　現状では、「生徒とどのように関わっていくべきか」という点に関して、職員会議や担任会等で教員間の意識共有を図っております。
（今後の対応）
　今回いただいたご意見を真摯に受け止め、再度、教員間の意識共有の重要性を認識するとともに、文化祭前に実施する職員会議や担任会等において、「生徒とどのように関わっていくべきか」という点に関してきっちりと確認していきたいと思います。

・文化祭の舞台発表を毎年楽しみに観ていますが、子供たちの顔がもっとはっきりと見えるようになればいいのにな、と思っています。スポットライト等で工夫ができないでしょうか。

【学校の受け止め方】
　ご意見、ありがとうございます。ステージ発表における照明に関するご指摘だと認識しております。
　生徒が一生懸命発表している姿・表情は、非常に輝いており、保護者の皆様もそれを見るのが一つの楽しみになっているのではないかと思います。そういう意味でも、きっちりと表情が見て取れるようなステージ発表の環境を整備したいと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】
（現在の対応）
　現状としては、スポットライトが２つあり、それを使用するようにステージ発表のクラスには指示しておりますが、適切な使用ができていない場合もあるのかもしれません。
　また、適切に使用はしているものの、２つのスポットライトでカバーできる範囲が限られているので、全ての生徒の顔が見える状態になっていないのかもしれません。
（今後の対応）
　スポットライトの使用を促進するとともに、その使用方法をさらに徹底して指導したいと思います。
　また、スポットライトの数が足りないと思いますので、予算の都合がつく限り、前向きに検討したいと思います。

・文化祭の舞台発表中に、舞台脇に控えている生徒が騒がしいので、肝心の舞台発表が聞き取れない。静かにできないのであれば、体育館の外で待機させるべきです。

【学校の受け止め方】
　ご意見、ありがとうございます。おっしゃるとおりで、ステージを見に来てくださっているお客様の立場で考えましたら、当然のことだと感じております。申し訳ありませんで

した。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】
（現在の対応）
　現状としましては、「出演する直前に、舞台袖に待機する」というルールになっております。もちろん、静かに待機するよう指示はしているつもりではありますが、徹底されていないのが現状であり、残念に感じています。
（今後の対応）
　生徒たち自身には、あの体育館の場で、友達の作品などを見ながら、ワイワイしつつ楽しみたいという気持ちもあるようですが、映画館では静かにするのがマナーであるのと同じで、ステージ発表の場である体育館においては、見に来てくださっているお客様の観賞環境を整えるという観点から、舞台袖に待機する際には静かにするよう、さらに指導していきたいと思います。
　場合によっては、袖に待機するのではなく、体育館近くの教室に待機するという方法も検討していきたいと思います。

・文化祭、もう少し楽しくできそうな気もしますが...
・もっと行事を増やしてほしい。
·文化祭、体育祭をもっと他校に負けないくらいやってほしい。吹高が一番と言うくらい。
・学校行事をもっと大きなものにしたい。生徒が主体的に作るものであるが準備時間が短い。

【学校の受け止め方】
　学校生活の中で、多くの生徒が純粋に「楽しい」と感じる代表的なものは、やはり学校行事だと思います。ですから、学校行事の「数」が増えれば、楽しいことが増えるということは決して間違いではないと思います。
　また、行事を通して学校生活が楽しくなることは、日ごろからの勉強にも頑張ろうとする大きな動機付けの一つにもなると思います。学校行事をより活発にするための取組みは、今後も継続していきたいと思います。
　しかし、そのうえで、現在の本校において、今、本当に大切なことは「楽しさの数」の前に、まずは「楽しさの質」を上げることだと考えています。
　例えば、文化祭や体育祭を実施していく上で重要な、企画・運営・準備・練習など、まずは生徒があと少し努力しなければいけない部分があるように感じています。
　「自分たちで作り上げる学校行事」という意識を高く持ち、クラスや周りの生徒と協力し合いながら、一生懸命取り組む姿勢がもっと高まることで、「楽しさの質」がワンランク上がり、生徒が学校行事から得る充実度・満足度も向上するのでは、と考えています。そうなれば、自然と他校にも負けないくらいの文化祭・体育祭であると、生徒が胸を張れる

日が来るのではないかと思います。
　準備期間については、現在の期間で適切であると認識しております。限られた時間の中で、計画性を持って取り組むことも重要であると思います。
　学校生活の中で「楽しめる何か」を願っているという生徒の気持ちは、しっかりと受け止めたうえで、「楽しさの数」を増やすのは、その次にした方が、生徒たちの感動はより高まると思います。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】
（現在の対応）
　生徒にとって貴重な経験となる、体育祭・文化祭の質の向上に向けて、全力を尽くしています。まだまだ、改善の余地があることは十分認識しておりますが、ここ数年という期間で見たときに、間違いなく、生徒の取り組む姿勢は向上していますし、それに伴って、体育祭・文化祭の全体的な質も、向上していると自負しております。
　学校としては、そういった吹田高校生の成長を心から喜ぶとともに、さらなる成長を遂げられるようにサポートしております。
（今後の対応）
　今、学校では、生徒会執行部を中心とした生徒の声に耳を傾けながら、来年度に向けて学校行事の中身の改善について積極的に検討していきたいと考えています。
　例えば、体育祭については、準備・運営に携わる生徒を増やし、学校行事を自分達の力で作り上げていくのだ、という意識を高められるような枠組みを作りたいと考えています。文化祭については、今年度の活動を通して明らかになった問題点を振り返り、各種ルールの改正・整理、閉会式の在り方の再検討など、昨年度よりもまた一歩進化できるようにしていきたいと思います。
　同時に、生徒には「学校行事の意味合い」や「目的」といったことについて、あらためてきっちりと説明していきたいと考えています。
　加えて、学校生活における「学校行事」と「勉強」両方の大切さを理解してもらえるように粘り強く働きかけ、最終目標としては、学校行事と勉強をうまく関連させながら、両方ともに前向きな気持ちを持って取り組める、そういった生徒に成長してもらい、すべての学校活動の活性化につなげていきたいと考えています。

・もっと部活を増やして欲しい。部活にしっかりした顧問がいて欲しい
・若い先生が多いメリットを活かして部活動を活発にしてもらえたらうれしい

【学校の受け止め方】
　ご意見、ありがとうございます。このご意見に共通することは、『学校で部活動がしたい』という前向きな気持ちの表われだと感じています。しかし、現状としては『入りたい部活

動がない』、『満足のいく部活動になっていない』というご意見をいただいたと認識しています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】
（現在の対応）
　学校として新しく部活を増やすことを認めていないということではありません。新しい部活の立ち上げに向け、動き出している生徒たちも少なからずいます。ただ現在、運動系13、文化系 13 の部活動があり、校内のいたるところで活動している状況があり、“活動場所の確保”の観点から考えたときには、計画的に進めていくことが必要な状況でもあります。
　部活動の顧問については、現在、計 26 のクラブのうち、16 のクラブにおいては専門的な指導ができる教員がおります。その他、外部指導者を招き、指導をしてもらっているクラブも多数あり、今後も生徒の期待に応えられる体制を整えていきたいと考えています。

（今後の対応）
　「満足のいく部活動になっていない」という認識のもとで、学校としては、生徒の皆さんにより満足のいく部活動をしてもらえるようにしていきたいと考えています。
　ただ、学校における部活動は、地域にあるクラブチーム等とは違い、部活動を通して人間的に成長する場であると考えています。それを実現するためには、顧問の熱心な指導はもとより、部員自身が、自分の所属するクラブのことを考えながら、クラブの方針、ルール、練習メニュー、後輩の指導方法等を作っていけるようになることも重要だと考えています。単に技術的な向上だけをめざすのではなく、「自分のクラブを自分で作り上げていく」、という意識を育み、自主的なクラブ運営ができるようにしていきたいと考えています。
　そのためにも、「自主的なクラブ運営」という大きな方向性を部員に伝えていくとともに、学校としてもそれをサポートできるようにしていきたいと思っております。

【主に保健衛生に関して】

・トイレが汚いのを改善してほしい。
・校内が汚いのがとてもきになります。特にトイレ、清掃はすべての基本です。しっかりやらせてください。
・文化祭のときにトイレに行こうと思いトイレに行きましたがあまりの汚さに入れませんでした。設備の古さもあるんでしょうが、暗くてくさくてちょっと生徒がかわいそうかなと思いました。いろいろ予算の都合もあるのでしょうが、改修できるならばしていただきたいです。

・校内の清掃が行き届いていない。教室も廊下も汚い。清掃に力を入れる。
・女子更衣室が汚い。
・食堂のメニューを豊富にしてほしい。

【学校の受け止め方】
創立 64 年目を迎え、歴史と伝統を積み重ねてきた本校ですが、校舎設備の老朽化が目立ってきたことは否めません。

学校でも、少しでも生徒たちの生活環境を豊かなものとするため、さまざまな取組みをしてきました。通常の清掃に加え、定期・臨時の大掃除、清掃徹底週間、清掃担当の教職員と生徒による施設設備の安全点検、クラブ員と生徒会執行部、有志生徒によるクリーンキャンペーン、生徒会執行部と保健委員の生徒によるミニ・クリーンキャンペーン（校内外清掃活動）、生徒保健委員によるごみのポイ捨て予防ポスター作製・掲示等です。また、女子更衣室やトレーニングルーム、部室等の清掃も、定期的に行ってまいりました。加えて、今年度は、若手教員による校内清掃活動を毎日行いました。生徒と教職員が力を合わせたこれらの取組みにより学校環境美化について、一定の改善はできつつあるではないかと感じています。

トイレにつきましては以前から、「清掃してもなかなかきれいにならない」、「においが取れない」との声がありました。専門業者の定期的な清掃に加え、汚れとにおい対策として平成 22 年度に全てのトイレの床をコーティング加工しました。以前に比べ、一定の効果はあったと感じています。また、今年度はとりわけ老朽化の目立った中央館の１階・２階・３階の３か所のトイレを全面改修できることになり、現在工事中です。ありがたいことです。その節には、生徒代表として各クラス生徒保健委員と、保護者代表として PTA 保健厚生委員の皆様がよりよいトイレづくりのアンケートにご協力くださいました。貴重なご意見をたくさんいただき、心から感謝しております。

食堂メニューについては、生徒たちの声も参考にしながら、教職員・食堂業者で構成する食堂委員会で検討することとなっており、生徒の利用状況なども踏まえて、リーズナブルで栄養価等にも配慮したメニューが提供できるよう検討してきたところです。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

トイレの改修等については、生徒に安全・安心な学校環境を提供する意味からも、少しずつでも着実に改善していくことが重要だと考えています。

大阪府全体の予算面の問題もあり、必ずしも確約することはかないませんが、現在も府教育委員会に対して行っている予算措置の要望を今後も続け、保護者の皆様とも連携しながら検討していきたいと思います。

食堂のメニューについても、コンビニやスーパーといった、手軽にまた自分の嗜好に応じた食品が提供される環境が身近にあること等により、一定量の需要が見込めないなど、

解決すべき課題が山積しています。

必ずしも、お寄せいただいたご要望に対して、直ちにお応えできる回答ではなく、心苦しい限りですが、生徒や保護者の皆様のご意見やご要望を参考にしながら、食堂委員会はもとより、ＰＴＡ活動の議題とすることを提案するなど、誠意をもって検討していきます。

・スクールカウンセラーを常駐する話はよく聞きますが、子ども達の本当の夢や思いを実現してもらうために、スクールコーチを配置する。また、先生方にもコーチングスキルを身につけていただけるとありがたいです。

【学校の受け止め方】

お声をいただき、ありがとうございます。

スクールコーチの役割は、「子どもの成長過程においてみられる特質を認識したうえで子ども・青少年に関わり、彼らがなりたい自分や送りたい人生を思い描き、個々にとってベストなキャリアを選択するために、彼ら自身が考え、答えを出して行動していくことをサポートする」ことであるとされています。（NPO 法人日本スクールコーチ協会 HP より）

残念ながら、スクールコーチの配置制度は、大阪府においては現在のところありませんので、学校への配置は難しいかと考えております。

一方で、社会が複雑化するとともに、多様性を大切にする観点からも、教職員がティーチングスキルとともに、コーチングの観点からスキルアップを図ることは、今後さらに重要になってくるものと考えています。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

（現在の対応）

本校にもご存知の通り、既に、キャリアデザイン教育専門の担当者である「キャリアコーディネーター」や、臨床心理士である「スクールカウンセラー」が在籍しており、日常的、定期的に生徒への指導・支援を実施しています。そこでは、担当者が生徒の考えや思い、悩みを十分受容し、その中で生徒自身がそれまで気づかなかった自分の才能や可能性、（時には限界にも）気づき、夢や目標を明確にし、それらを実現するための行動計画を生徒自らが実行できるよう支援をします。生徒一人一人が自らのめざす人生に向かって生きていけるよう、保護者の皆様のご理解とご協力を頂きながら、担任や教科担当、進路指導部、保健部等、校内の全職員が協力して指導・支援に努めさせていただいているところです。

（今後の対応）

生徒一人一人が、自らのめざす人生を思い描き、個々にとってベストなキャリアを選択するために、彼ら自身が考え、答えを出して行動していくことをサポートすることを目標に、今までの指導・支援の方法を今後も深化・充実させていきたいと考えています。

【主にメルマガ・ＨＰに関して】

・週間のスケジュールはメルマガでわかりますが、できれば文化祭、体育祭等の行事は学期はじめなどに早めのスケジュール確認できると助かります。いつもありがとうございます。
・行事予定表（ＨＰ）を正しく記載してほしいです。抜けていたり、日が間違っていることがあります。
・メルマガで定期考査の予定を２～３週間前には知らせて欲しい。
・学校行事の連絡が遅い。保護者の参加が多い物に関しては、できるだけ早くおしらせして欲しいです。メルマガが毎週配信されるわりには、知りたいことが抜けている。
・いつも大変お世話になっています。男の子は学校での話も邪魔くさがってほとんどしてくれません。だから本人はいやがりますが、体育祭・文化祭等の参加は毎年させて頂いて、子どもの様子を見て、楽しそうにしているなぁと安心して帰ります。部活動の試合見学も行きますが、親同士の繋がりがないのでずっと寂しく思っていました。あまり介入してはいけないという雰囲気？の中、今の時代はどこまで関心を持って学校と関わりを・・・・と考えたり・・・。メルマガはそういう意味でとても助かります。大変ですが、今後も宜しくお願いします。・・・・文化祭の様子を見て思いますが、一つのことに取り組む姿勢が次の頑張りになる！吹高の良さを伝えてください。

【学校の受け止め方】

たくさんのご意見ありがとうございます。学校として、メルマガ・ＨＰについては一定の評価をいただいていると認識しております。

年間行事予定はＨＰにて閲覧が可能ですが、ご指摘いただいた通り情報の「抜け」「誤り」があってはならないので、日程の変更等が発生した場合など、慎重に対応させていただきます。

【来年度以降の指導の方向性（対応）】

学校としては「情報は鮮度が命」だと捉えており、日々保護者の皆様に学校の教育活動を少しでも知っていただけるよう、メルマガは週１回、ＨＰは週２～３回程度という頻度で配信・更新させていただいております。

今後学校としては、直近の情報については「メルマガ」、その他については「ＨＰ」で情報を発信していきたいと考えております。

メルマガではトピックのみをお知らせし、詳しくはＨＰで閲覧していただくという形にすれば、メルマガを受信した段階で「知りたい情報」を取捨選択できます。

文化祭・体育祭については今年度より生徒の準備段階の様子からすべてＨＰに掲載させていただきました。しかし、「ＨＰにそれらの情報が掲載されている」という情報が不徹底

であったため、掲載されているのに知らない人が存在するということになっていたと認識しております。今後は、メルマガを通して「ＨＰに〇〇の情報が掲載されております」という情報も発信していきたいと考えております。

今後とも、メルマガ・ＨＰをどうぞよろしくお願いします。